

「引きこもり」の実態に関する調査報告書⑦
－NPO法人全国引きこもりKHJ親の会における実態－

2010年3月

制 作

境 泉洋 徳島大学大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

野中 俊介 徳島大学大学院総合科学教育部

大野あき子 徳島大学大学院総合科学教育部

NPO法人全国引きこもりKHJ親の会（家族連合会）

目次

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

第一部 家族調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

1. 目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

2. 調査方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

3. 結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

第二部 本人調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

1. 目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

2. 調査方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

3. 結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

第三部 自由記述・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

第四部 全体のまとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

参考・引用文献・・・・・・・・・・・・・・・・

資料

図表一覧

第一部 家族調査

- 表 1-1 本調査の対象となった引きこもり本人が住んでいる場所
- 図 1-1 引きこもり本人との家族回答者の続柄
- 図 1-2 家族回答者の年齢
- 図 1-3 引きこもり本人と家族回答者の同・別居
- 図 1-4 引きこもり本人の性別
- 図 1-5 引きこもり本人の年齢
- 図 1-6 引きこもり本人（男）の年齢
- 図 1-7 引きこもり本人（女）の年齢
- 図 1-8 引きこもり期間
- 図 1-9 引きこもりの初発年齢
- 図 1-10 引きこもりの経験回数
- 図 1-11 引きこもりの程度
- 図 1-12 引きこもり本人が複数人いる家庭
- 図 1-13 引きこもり本人の不登校経験
- 図 1-14 引きこもり本人の就労経験
- 図 1-15 引きこもり本人のパソコン、携帯電話、ゲーム機の利用
- 図 1-16 引きこもり本人のパソコンの一日平均利用時間
- 図 1-17 引きこもり本人の携帯電話の一日平均利用時間
- 図 1-18 引きこもり本人のゲーム機の日平均利用時間
- 図 1-19 引きこもり本人のパソコン、携帯電話、ゲーム機の利用目的
- 図 1-20 引きこもり本人の相談機関の利用状況
- 図 1-21 家族回答者の相談機関の利用状況
- 図 1-22 家族回答者の生活の質
- 図 1-23 家族回答者の引きこもり本人に対する社会的スキル
- 図 1-24 家族回答者の引きこもり本人との関係における幸福感

第二部 本人調査

- 表 2-1 本人調査回答者が住んでいる場所
- 図 2-1 本人調査回答者の性別
- 図 2-2 本人調査回答者の年齢
- 図 2-3 本人調査回答者（男）の年齢
- 図 2-4 本人調査回答者（女）の年齢
- 図 2-5 本人調査回答者の引きこもり期間
- 図 2-6 本人調査回答者の引きこもり初発年齢
- 図 2-7 本人調査回答者の引きこもり経験回数
- 図 2-8 本人調査回答者の現在の引きこもりの程度
- 図 2-9 本人調査回答者の不登校経験
- 図 2-10 本人調査回答者の就労経験
- 図 2-11 本人調査回答者のパソコン、携帯電話、ゲーム機の利用
- 図 2-12 本人調査回答者のパソコンの一日平均利用時間
- 図 2-13 本人調査回答者の携帯電話の一日平均利用時間
- 図 2-14 本人調査回答者のゲーム機の日平均利用時間

- 図 2-15 本人調査回答者のパソコン，携帯電話，ゲーム機の利用目的
- 図 2-16 本人調査回答者の相談機関の利用状況
- 図 2-17 本人調査回答者の生活の質
- 図 2-18 本人調査回答者が来談する際に有効な家族からのサポート
- 図 2-19 本人調査回答者が来談する際に知りたい情報（1）
- 図 2-20 本人調査回答者が来談する際に知りたい情報（2）
- 図 2-21 本人調査回答者の体験の回避

第四部 全体のまとめ

- 図 4-1 引きこもり本人の平均年齢と引きこもり開始（初発）年齢
- 図 4-2 引きこもり，統合失調症，及び一般における当事者と家族の生活の質

本調査における用語の定義

- ・引きこもり状態：社会参加（学校・職場に行くなど）をしておらず，自宅以外での活動が失われた状態
- ・家族回答者：家族調査に回答された方
- ・引きこもり本人：主には現在引きこもり状態にある方を示していますが，過去に引きこもり状態を経験されて現在は社会参加されている方（引きこもり経験者）も含まれています。
- ・本人調査回答者：本人調査に回答された方。

はじめに

本報告書の目的は、引きこもり状態にある人とその家族の生活の質（Quality of Life）について明らかにすることです。本報告書の結果から、引きこもり状態にある方の生活の質が特に低下している実態が明らかにされました。

本報告書は、家族調査、本人調査、自由記述から構成されています。本年度の調査では、一旦引きこもりから回復しても再度引きこもりに戻ってしまう再発が多いという指摘から、引きこもりの再発について調査を行いました。また、引きこもり状態にある方のパソコン、携帯電話、ゲーム機の利用の実態について調査を行いました。さらに、調査実施者が現在研究を進めている、家族と引きこもり状態にある人の関係性や引きこもり状態にある方が相談を利用する上で必要な情報などについても調査を行いました。

第三部の自由記述では、家族や引きこもり経験者が「生活の質を向上するために望む支援」について回答を求めました。自由記述には、引きこもりを取り巻く現状が切実に語られています。

本年度の調査では、家族383名、引きこもり経験者91名の協力が得られました。引きこもり経験者とその家族についての大規模調査はまだ少ない現状において、引きこもりの実態を知る上で貴重な知見が得られたと考えています。

最後になりましたが、7年に渡り本調査の実施に協力してくださった全国引きこもりKHJ親の会の会員の皆様、各地区代表の方々に心より感謝申し上げます。また、本調査は、平成21年度科学研究費補助金若手研究（B）「引きこもり状態に対する臨床心理的地域援助システムのあり方に関する研究」の助成を受けて実施することができました。ご協力、ご支援くださった皆様のご厚意を無駄にしないよう、本調査の結果を広く普及、活用していく所存です。

平成22年3月吉日

境 泉 洋

第一部 家族調査

1. 目的

本調査においては、家族の生活の質（Quality of Line : QOL）, 及び家族関係について調査を実施しました.

2. 調査方法

(1) 調査対象者

NP0法人全国引きこもりKHJ親の会の支部会, 準地区会が平成21年11月～平成22年1月に開催した月例会において調査を実施しました. 月例会の参加者の内, 調査協力の得られた383名の回答が解析に用いられました. ほとんどの回答者には, 月例会において調査用紙を配布し, その場で回収しました. しかし, 各支部会, 準地区会の運営上の事情から, 翌月の月例会に記入の上で持参したものを回収したり, 郵送によって回収を行った回答者もいました.

(2) 調査内容 (注: 調査内容の詳細は, 巻末の資料を参照してください)

①基礎情報 家族調査に回答した方 (以下, 家族回答者) 及び, 引きこもり状態にある人 (以下, 引きこもり本人) に関する以下の情報について回答を求めました.

- 引きこもり本人が住んでいる都道府県
- 家族回答者と引きこもり本人との続柄
- 家族回答者の年齢
- 家族回答者と引きこもり本人の同・別居
- 引きこもり本人の性別
- 引きこもり本人の年齢
- 引きこもりの期間
- 引きこもりの程度
- 引きこもっている人の数
- 引きこもり本人の不登校経験
- 引きこもり本人の就労経験
- 引きこもり本人のパソコン・携帯電話・ゲームの利用状況
- 引きこもり本人の相談機関利用状況
- 家族回答者の相談機関利用状況

②家族回答者の生活の質

生活の質 (Quality of Line : QOL) を測定するために, WHO QOL 26 (田崎・中根, 2007) を金子書房の許可を得て用いました. この尺度では, QOLについて, 全体的なQOL, 全体的な健康状態, 身体的領域, 心理的領域, 社会的関係, 環境領域について測定することができます.

③家族回答者の社会的スキル

社会的スキルとは「良好な人間関係を築くために必要な対人技術」です。家族の社会的スキルを測定するために、引きこもり状態にある人に対する家族の社会的スキル尺度（境，2005）を使用しました。この尺度は、冷静な対応，主張スキル，協調スキル，視線スキルの4因子から構成されており，6件法で回答してもらいました。具体的には，以下のような項目から構成されています。

- (1) 冷静な対応 「気持ちが焦っているときでも，落ち着いた声で話す」，「話しかけるときに，子どもに不快感を与えない距離をとる」といった，引きこもり状態にある人に冷静に対応しようとする行動を表す項目。
- (2) 主張 「不愉快な気持ちを伝えるとき，自分がどんな気持ちになったか子どもに伝える」，「不愉快な気持ちを伝えるとき，不愉快になった理由を具体的に話す」といった，引きこもり状態にある人に対する主張行動を表す項目。
- (3) 協調 「楽しい話をするときには，その場に合った明るい表情で話す」，「楽しい話をするときには，その場に合った明るい声の調子で話す」といった，引きこもり状態にある人と明るい話題を話すことを表す項目。
- (4) 視線 「話しかけられたとき，子どもの方に体を向ける」，「話しかけられたときには，子どもを見る」といった，引きこもり状態にある人に視線を向けて話すことを表す項目。

⑤家族回答者の幸福感

Relationship Happiness Scale (Smith & Meyers, 2004) を制作者の許可を得て使用しました。家族と本人との関係における主観的幸福感について尋ねる10項目から構成されており，10件法で回答を求めました。この尺度では，飲酒，家事，子育て，社会活動，家計，コミュニケーション，愛情，仕事・学校，感情面のサポート，全体的幸福感について測定することができます。

3. 結果

1. 基礎情報

①引きこもり本人が住んでいる場所

表1-1 本調査の対象となった引きこもり本人が住んでいる場所

地方	都道府県	人数	地方	都道府県	人数
北海道・東北地方	北海道	7	近畿地方	大阪府	4
	宮城県	8		兵庫県	1
	青森県	4	中国地方	広島県	17
	岩手県	8		山口県	11
新潟県	19	岡山県		7	
甲信越地方	石川県	15	四国地方	香川県	23
	富山県	13		愛媛県	11
	千葉県	41		高知県	7
東京都	17	徳島県		7	
関東地方	埼玉県	35	九州地方	宮崎県	6
	神奈川県	15		鹿児島県	2
	栃木県	16		福岡県	12
	茨城県	2	沖縄県	7	
	東海地方	静岡県	28	長崎県	1
		愛知県	21	不明	18
		合計			383

表1-1に示したとおり、本調査は29都道府県の家族回答者から回答が得られました。各地方の割合としては、北海道・東北地方が7.0%、甲信越地方が12.3%、関東地方が32.9%、東海地方が12.8%、近畿地方が1.3%、中国地方が9.1%、四国地方が12.5%、九州地方が7.3%となっています。

②家族回答者と引きこもり本人との続柄

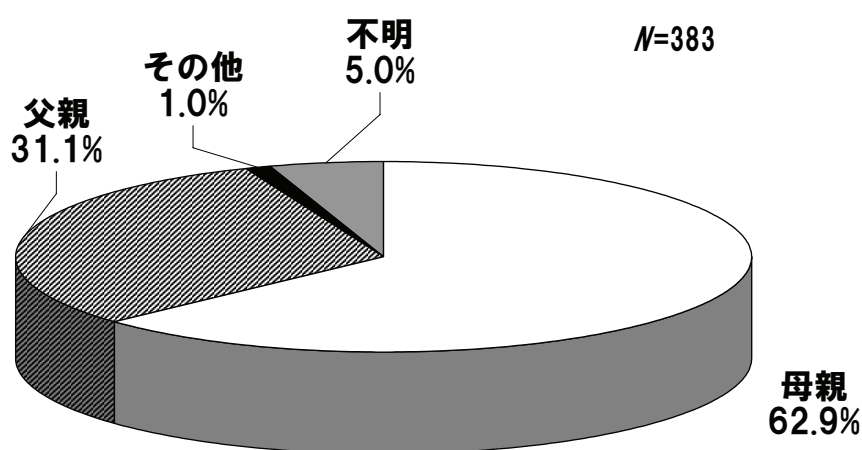


図1-1 引きこもり本人と家族回答者の続柄

調査回答者と引きこもり本人の続柄は、母親が62.9%、父親が31.1%、その他1.0%、不明5.0%でした。その他としては、姉、祖母、叔父、叔母、長女、などがおられました。親の会参加者と引きこもり本人との続柄に関しては、2002年3月の調査報告書以来、一貫して母親が多いという結果が得られています。

③家族回答者の年齢

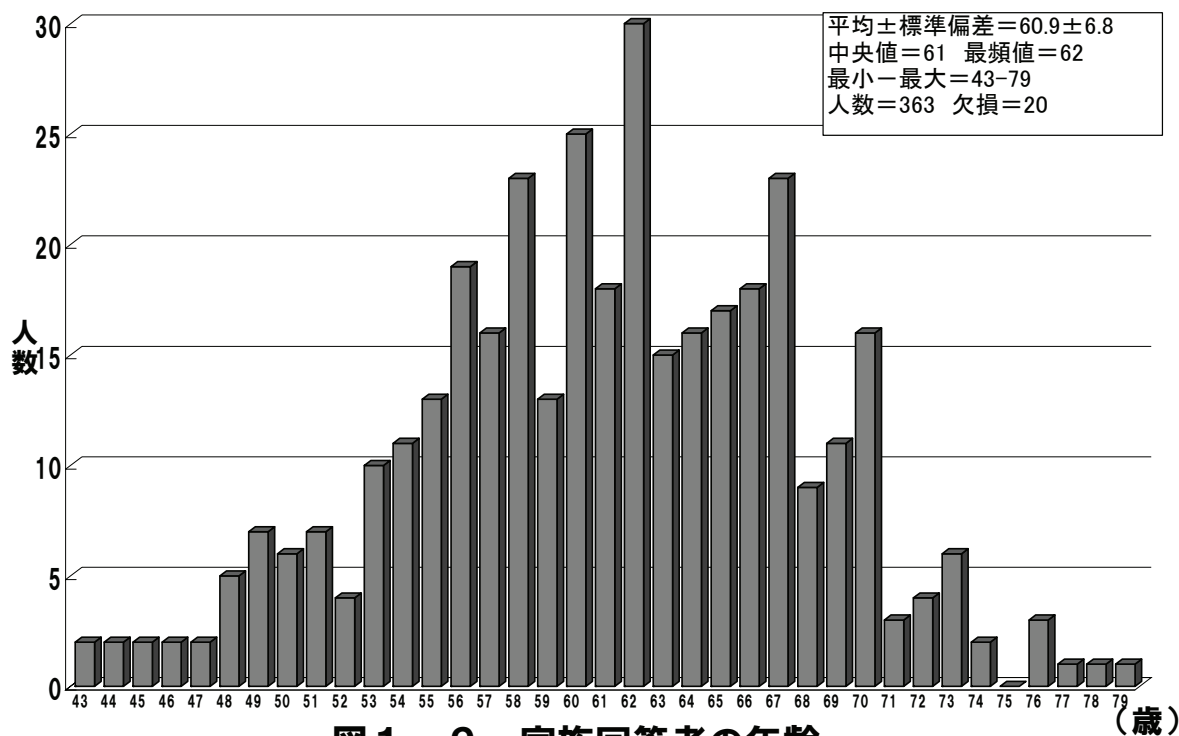


図1-2 家族回答者の年齢

家族回答者の年齢は、平均60.9歳であり、最年少が43歳、最年長が79歳でした。母親の年齢に関しては、平均59.9歳であり、最年少が43歳、最年長が79歳でした。父親に関しては、平均62.9歳、最年少45歳、最年長78歳でした。家族回答者の年齢も上昇している傾向があります。

④家族回答者と引きこもり本人との同別居

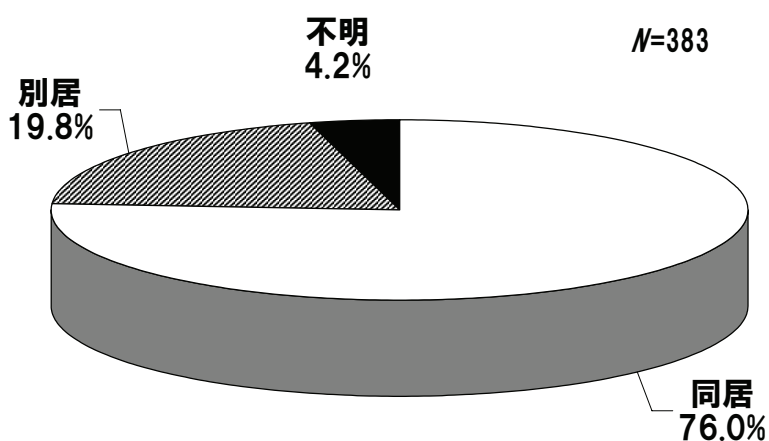
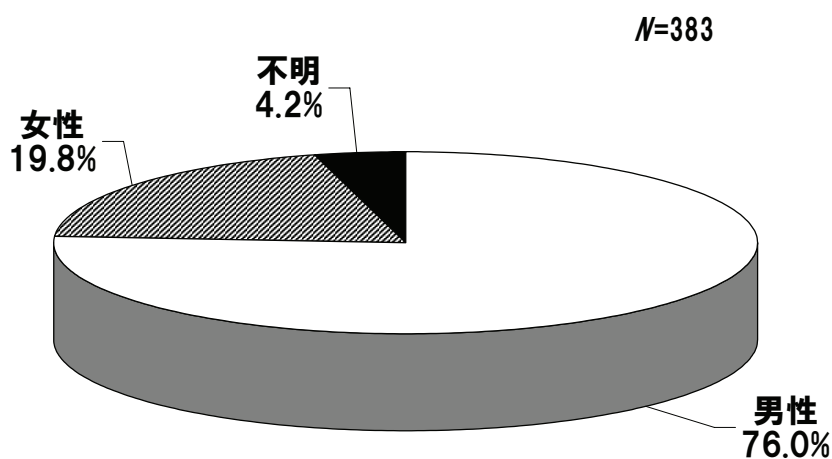


図1-3 引きこもり本人と家族回答者の同・別居

図1-3に示したように、家族回答者と引きこもり本人の同別居に関しては、同居している人が76.0%と多いことが示されました。この傾向は過去の調査においても同様です。しかし、同居の割合は昨年度の85.9%と比べると大きく減少しています。

⑤引きこもり本人の性別



引きこもり本人の性別については、男性が76.0%、女性が19.8%、不明が4.2%でした。男性が多い傾向もこれまでの調査と同様です。

図1-4 引きこもり本人の性別

⑥引きこもり本人の年齢

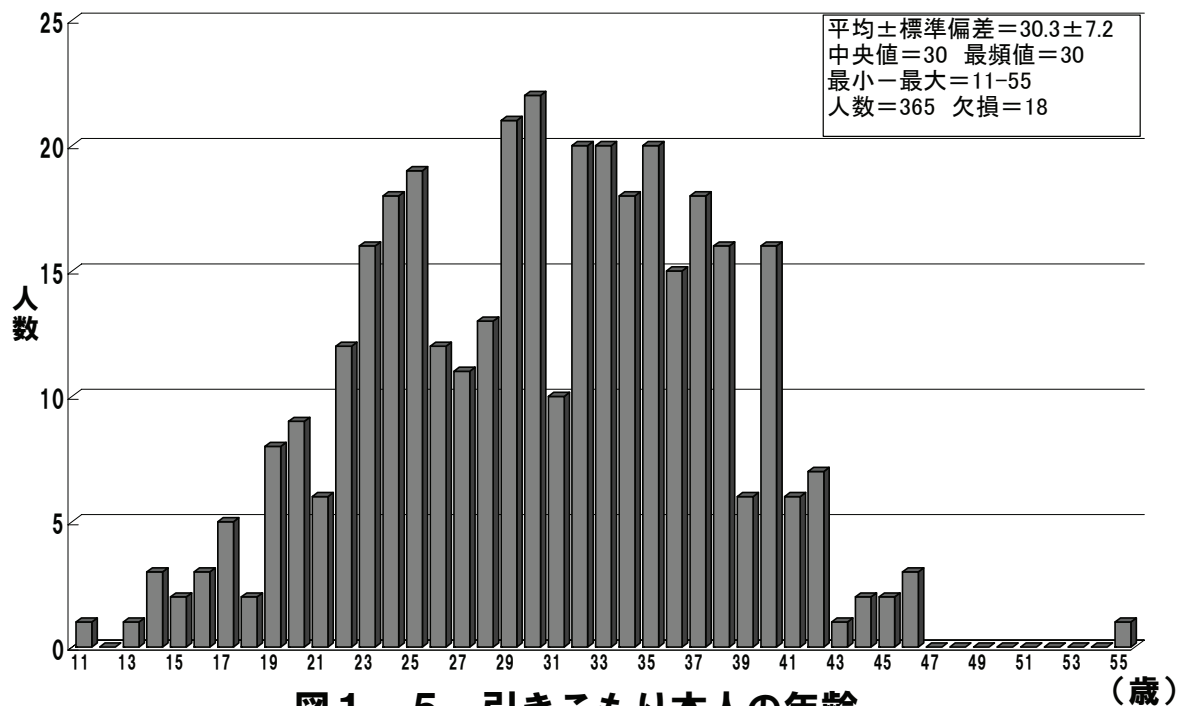


図1-5 引きこもり本人の年齢 (歳)

全体では平均30.3歳であり、最年少が11歳、最年長が55歳でした (図1-5)。男性に関しては、平均年齢30.6歳であり、最年少が14歳、最年長が55歳でした (図1-6)。女性に関しては、平均年齢29.3歳、最年少が11歳、最年長が46歳でした (図1-7)。

2007年の調査で初めて平均年齢が30歳を越えましたが、本年度の調査では若干ではありますがさらに年齢が上昇しました。ただしこの結果は、本調査の対象となった引きこもり本人の年齢についての結果であり、引きこもり本人全体の年齢が上昇していることを示しているわけではありません。

一方で、過去の調査からの傾向を見ると、引きこもり本人の年齢は30歳で停滞している傾向も伺えます。年齢の上昇が停滞した理由について明らかにするには、個別の追跡調査が必要になると考えられます。

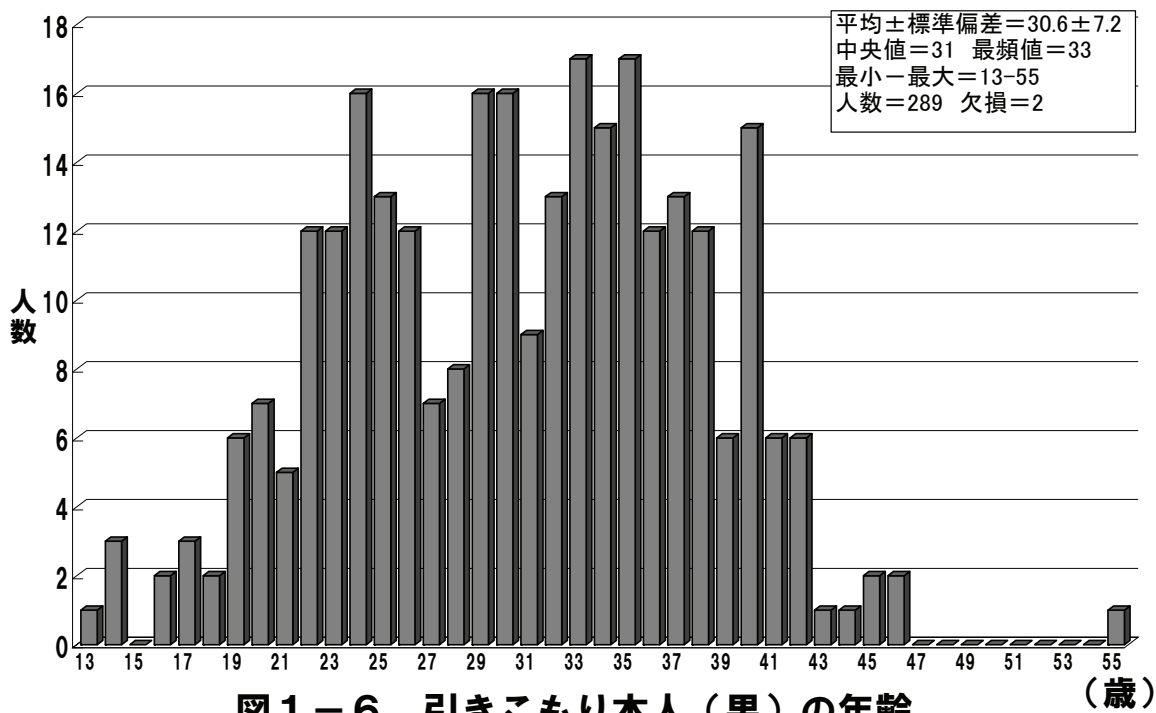


図1-6 引きこもり本人（男）の年齢

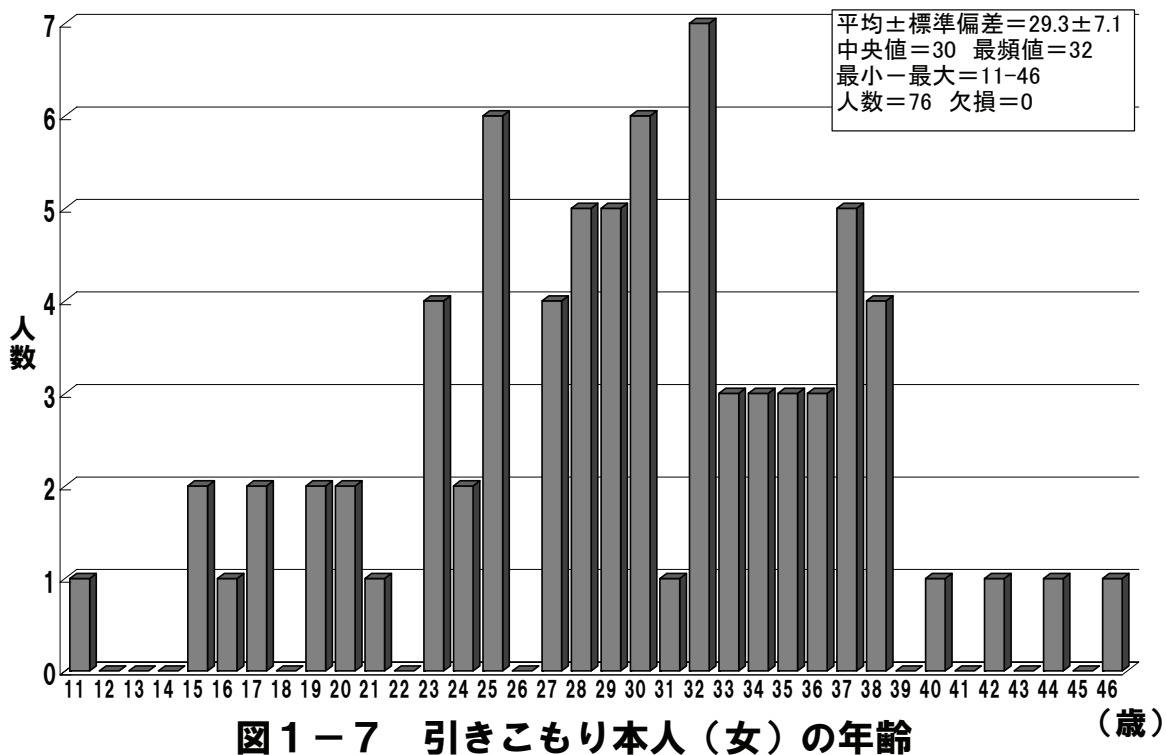


図1-7 引きこもり本人（女）の年齢

⑦引きこもり期間

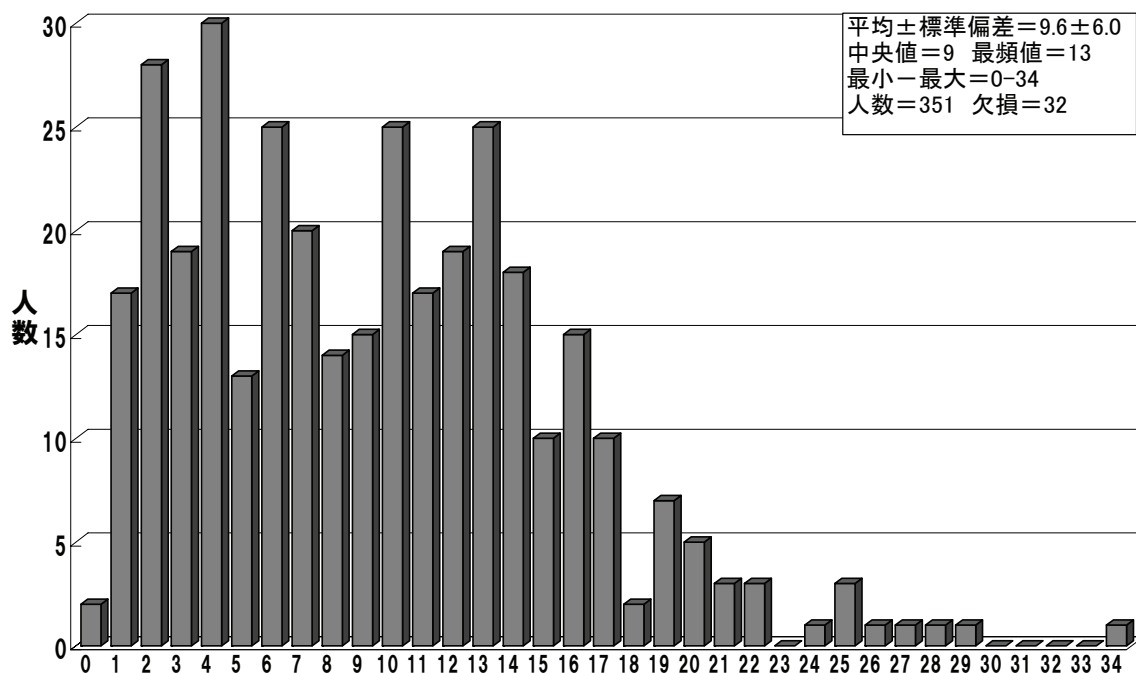


図1-8 引きこもり期間 (年)

引きこもり期間は、平均9.6年であり、最長が34年でした。引きこもり期間は調査実施時までのものであり、今後さらに伸びる可能性があります。過去の調査と同様に、平均の引きこもり期間が10年に迫っており、長期化の防止が重要な課題になっているといえます。

⑧引きこもりの初発年齢

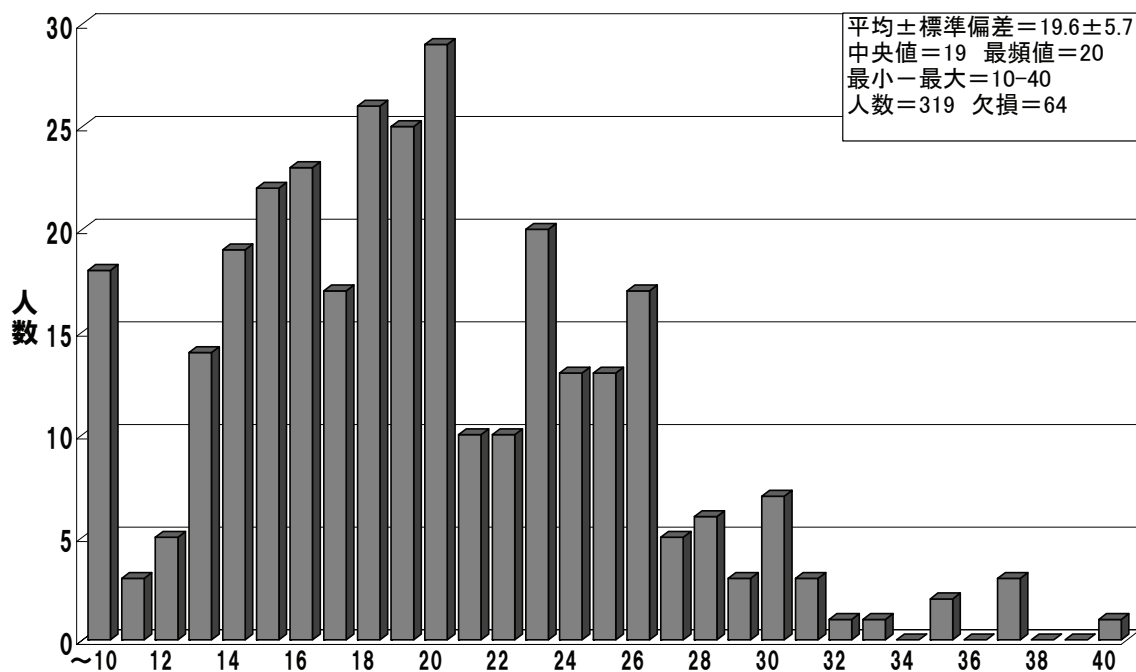


図1-9 引きこもりの初発年齢 (歳)

引きこもりの初発年齢は、平均19.6歳であり、最大が40歳でした。特に、12歳から29歳までに引きこもり始める人が87.7%と多く、中学校入学から20代後半までに引きこもりが始まるものがほとんどであると言えます。

⑨引きこもりの経験回数

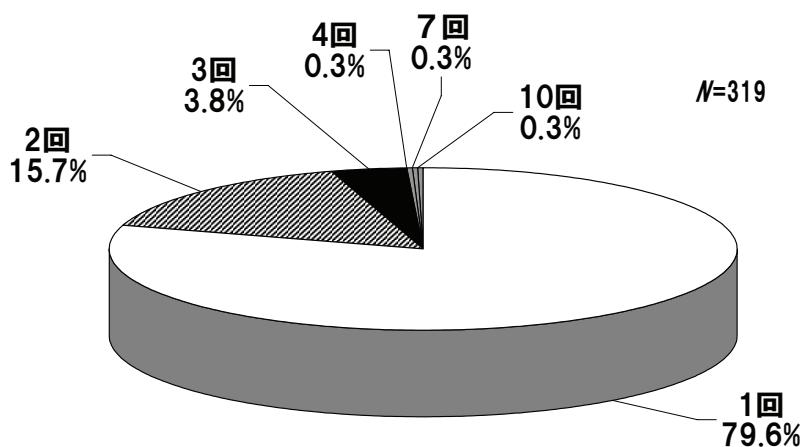


図1-10 引きこもりの経験回数

引きこもりの経験回数を算出したところ、1回が79.6%、2回が15.7%、3回が3.8%、4回が0.3%、7回および10回が0.3%でした。このことから、引きこもりを2回以上繰り返し経験している人が20%以上いることになります。引きこもりの再発は、より深刻な

引きこもりにつながる可能性を高めると考えられます。引きこもり再発についても今後より詳細な情報を収集していく必要があると考えられます。

⑩引きこもりの程度

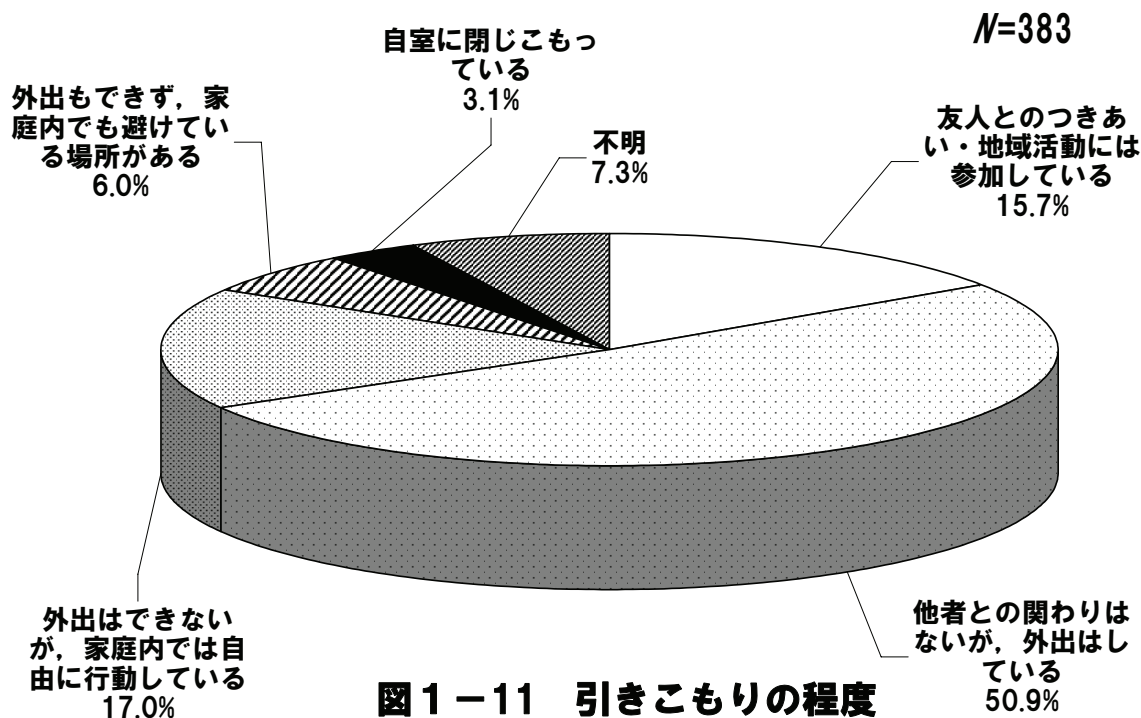


図1-11 引きこもりの程度

引きこもりの程度については、他者との関わりはないが外出しているという人が全体の50.9%を占め最も多く存在しました。友人との付き合い、地域活動に参加と言っ

た引きこもりから抜け出しつつある人も15.7%含まれています。一方で、外出できないが、家庭内では自由に行動している人が17.0%，外出もできず、家庭内でも避けている場所がある人が6.0%，自室に閉じこもっている人が3.1%となっています。外出できない人は26.1%であり、外出できない人は引きこもりの中でも深刻な状態にあるといえます。

⑪引きこもり本人が複数いる家庭

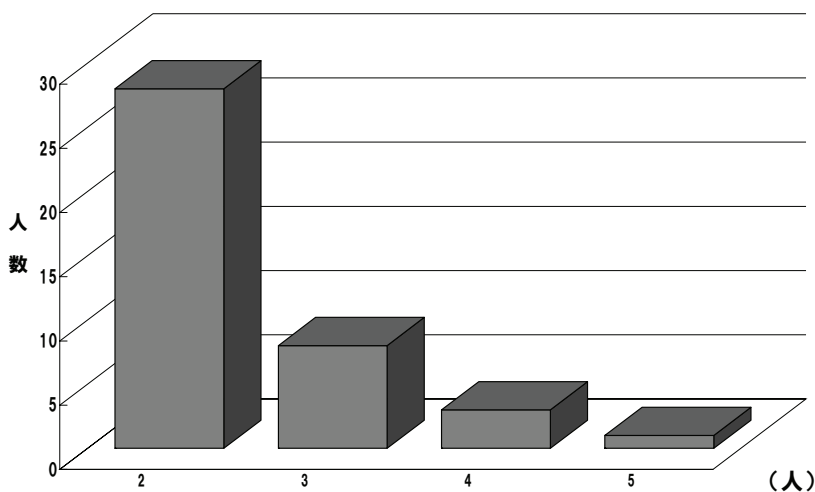


図1-12 引きこもり本人が複数人いる家庭

引きこもり状態にある人が家庭に2人いる回答者が28名、3人が8名、4人が3名、5人が1名となりました。本調査の対象者のうち40名は引きこもりの人が2人以上家庭にいることになり、これは全体の10.4%にあたります。

⑫引きこもり本人の不登校経験

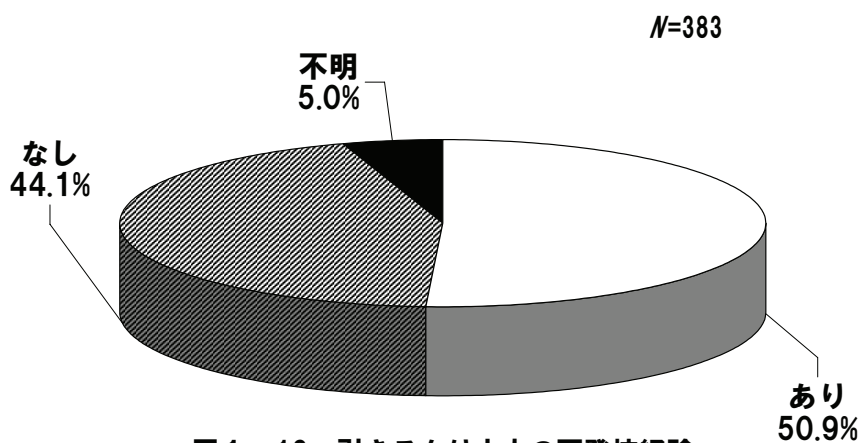


図1-13 引きこもり本人の不登校経験

引きこもり本人の50.9%に不登校経験のある人がいることが明らかにされました。引きこもり本人の大半が不登校を経験しており、不登校の時点での早期の対応が引きこもりを予防する上でも有効であると考えられます。

⑬引きこもり本人の就労経験

引きこもり本人の52.7%がアルバイトを含む就労経験を持っていることが示されました。引きこもり本人は、就労したにも関わらず就労が継続できずに引きこもり状態になる方が多くいることが分かります。

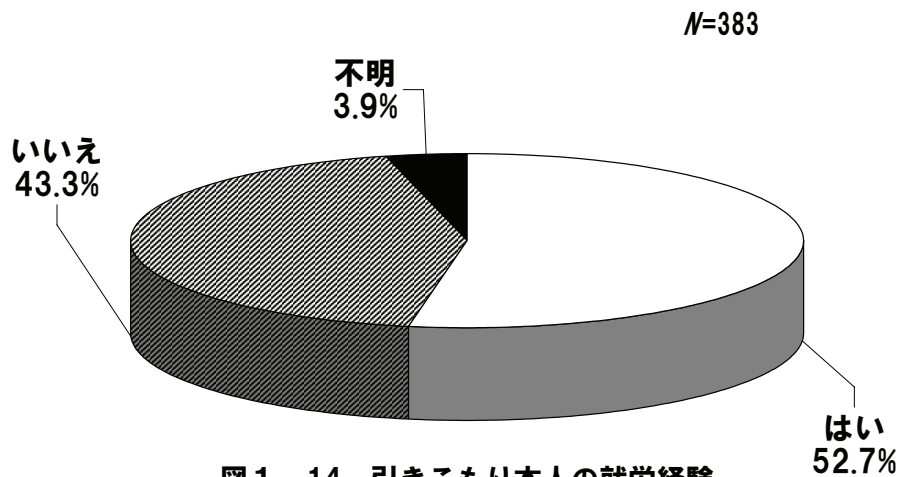


図1-14 引きこもり本人の就労経験

⑭引きこもり本人のパソコン等の利用

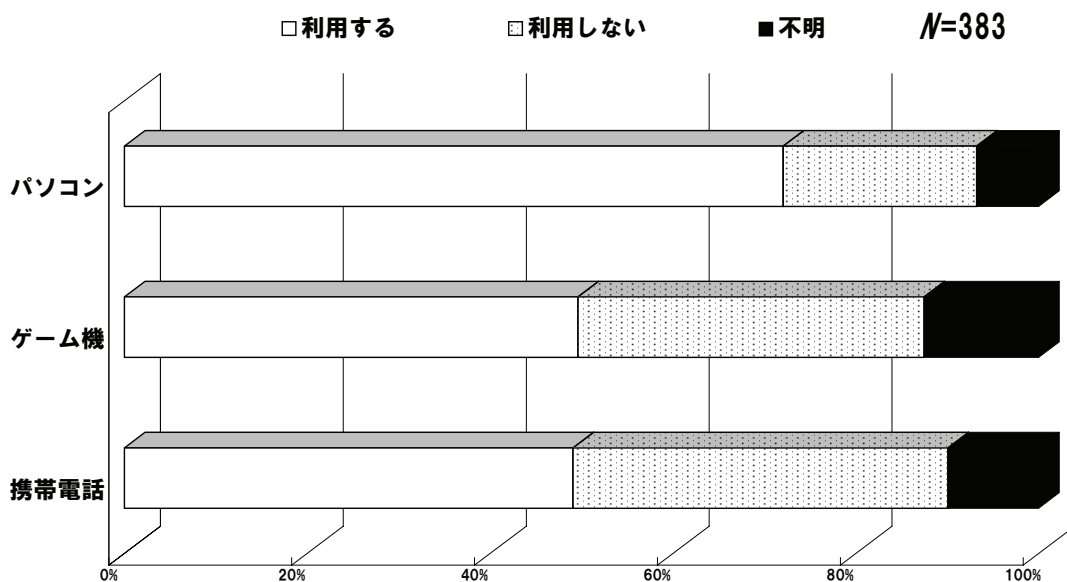


図1-15 引きこもり本人のパソコン、携帯電話、ゲーム機の利用

引きこもり本人の72.1%がパソコンを利用しており、49.6%がゲーム機、49.1%が携帯電話を利用していることが明らかにされました。携帯電話の利用率は、引きこもり本人の同世代の人と比べると低い傾向にあるといえます。

⑮引きこもり本人のパソコン等の1日の利用時間

パソコンの1日の平均利用時間は4.9±4.1時間(図1-16)、携帯電話の1日の平均利用時間は1.94±3.7時間(図1-17)、ゲーム機の1日の平均利用時間は2.66±2.4時間(図1-18)でした。パソコンの利用時間が一番長く、引きこもり本人が家で従事する活動としてパソコン利用が主要なものとなっている現状が伺えます。しかし、いずれにおいても依存症と言うほど長時間利用している人は希にしか認められませんでした。また携帯の利用時間が少ないのは、家族からみると引きこもり本人が携帯を使っているのが分かりにくいという要因が関連している可能性もあります。

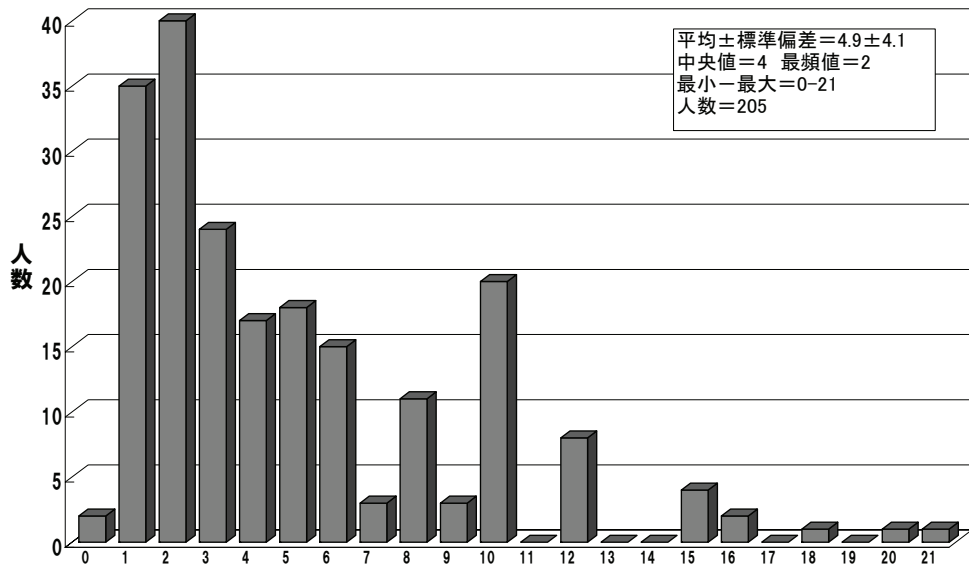


図1-16 引きこもり本人のパソコンの一日平均利用時間 (時間)

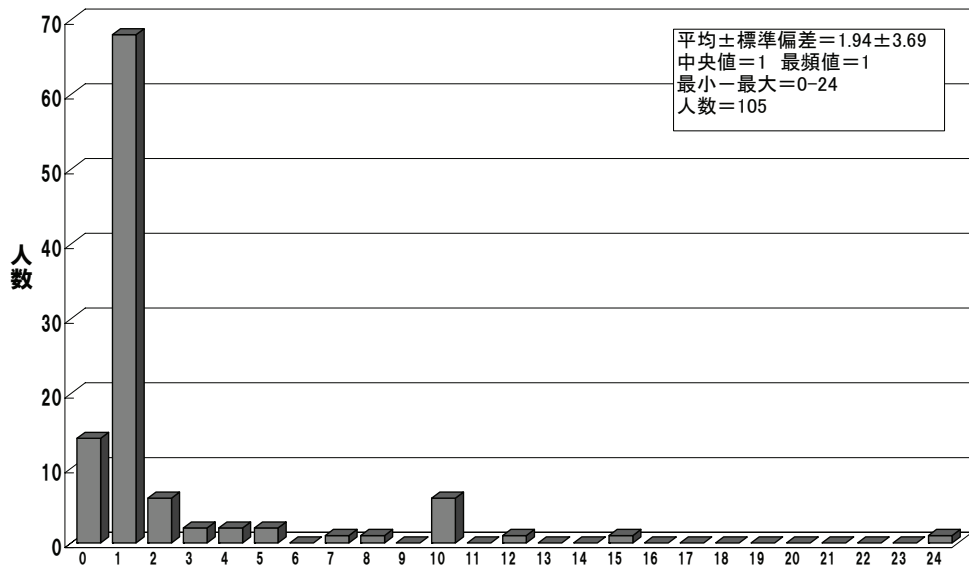


図1-17 引きこもり本人の携帯電話の一日平均利用時間 (時間)

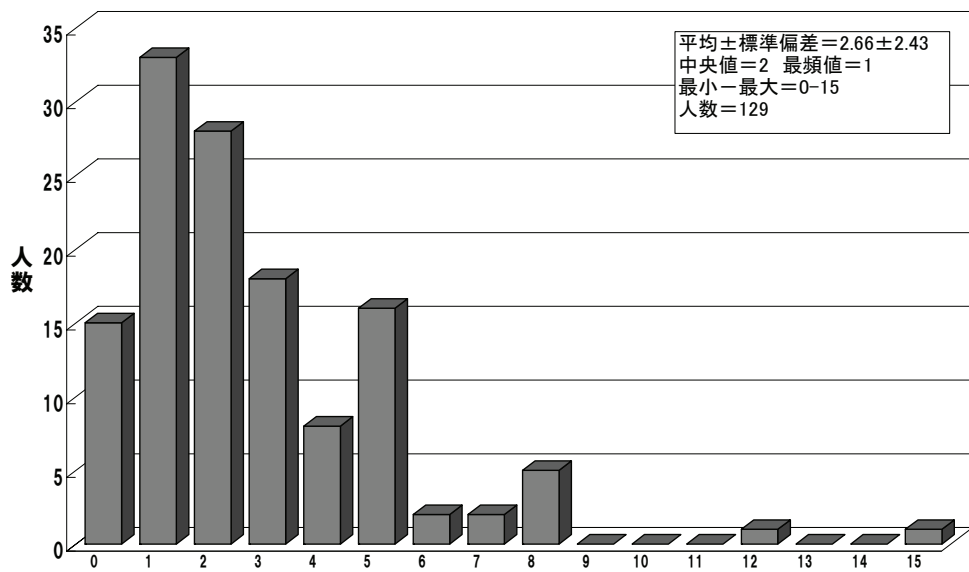


図1-18 引きこもり本人のゲーム機の一平均利用時間 (時間)

⑮引きこもり本人のパソコン，携帯電話，ゲーム機の利用目的

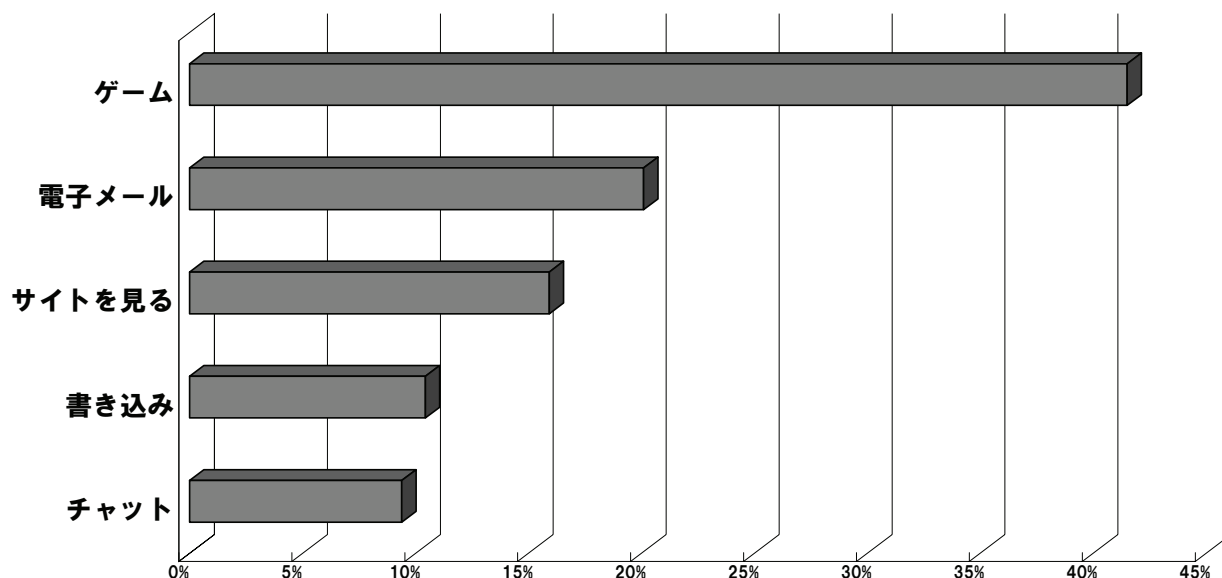


図1-19 引きこもり本人のパソコン，携帯電話，ゲーム機の利用目的

引きこもり本人がPC等を利用する目的は，ゲームが41.5%，電子メールが20.4%，サイトを見るが15.9%，書き込みが10.4%，チャットが9.3%でした。このことから，主な利用目的はゲームであると言えます。引きこもり本人はパソコン等を情報収集や他者との交流ではなく，自宅内での娯楽のために利用しているといえます。

⑯引きこもり本人の相談機関の利用状況

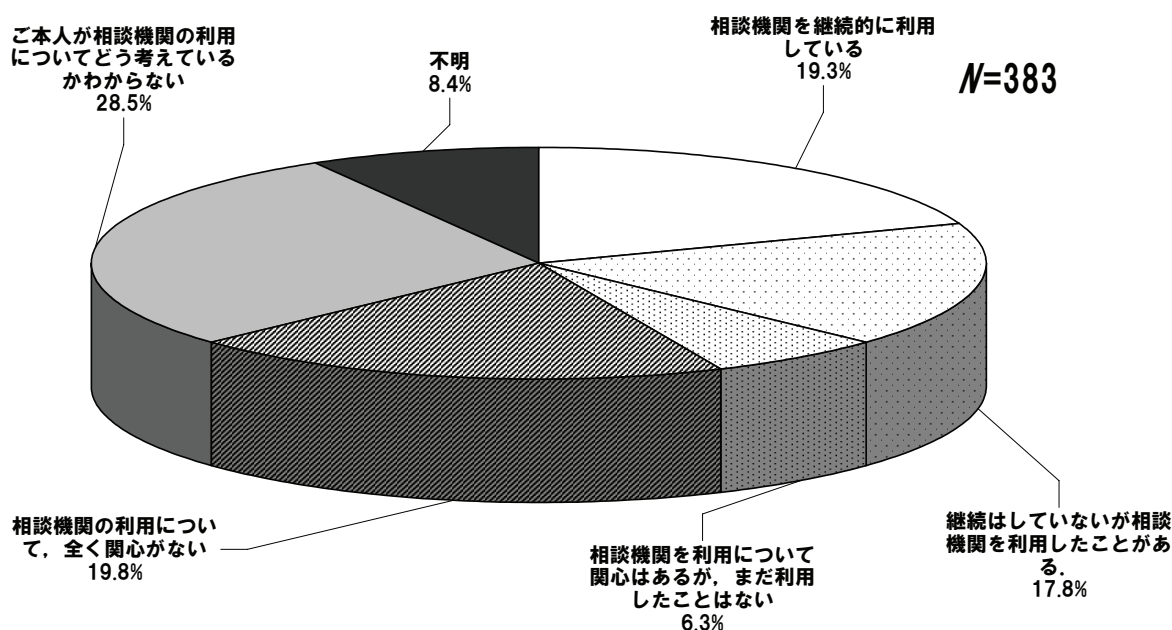


図1-20 引きこもり本人の相談機関の利用状況

図1-20は、引きこもり本人の相談機関の利用状況を示しています。継続的に相談機関を利用している人は19.3%です。継続はしていないが相談機関を利用したことがあるという人が17.8%で、これまでに相談機関を利用したことのある人は全体の37.1%です。相談機関の利用について、全く関心がない人が19.8%、本人が相談機関の利用についてどう考えているのか分からない人が28.5%でした。特に、本人が相談機関の利用についてどう考えているかわからないというケースにおいては、引きこもり本人と家族のコミュニケーションがうまくいっていない可能性が考えられますが、こうしたケースが多いのが特徴的と言えます。

⑰家族回答者の相談機関の利用状況

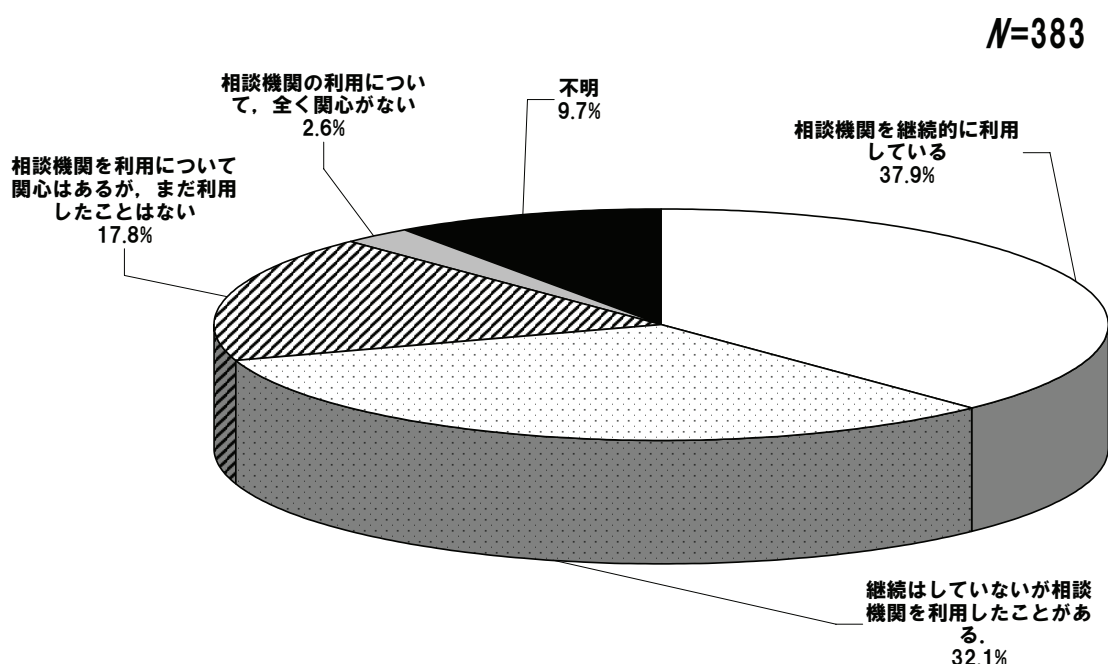


図1-21 家族回答者の相談機関の利用状況

図1-21は、家族回答者の相談機関の利用状況を示しています。家族で定期的に相談機関を利用している人は37.9%です。しかし、継続はしていないが相談機関を利用したことがあるという人が32.1%となっており、一旦は利用するけれども継続していない人が多いことがわかります。家族に関しては、これまでに相談機関を利用したことのある人は70.0%であり、引きこもり本人と比べて高い値となっています。

⑱家族回答者の生活の質

家族回答者の生活の質については、全体的なQOL、身体的領域、心理的領域、社会的関係において、田崎・中根（2007）に示されている一般の50代の方の平均と比べて低いことが明らかにされました。このことは、家族が引きこもり状態になることによって、家族の生活の質が低下していることを示しています。

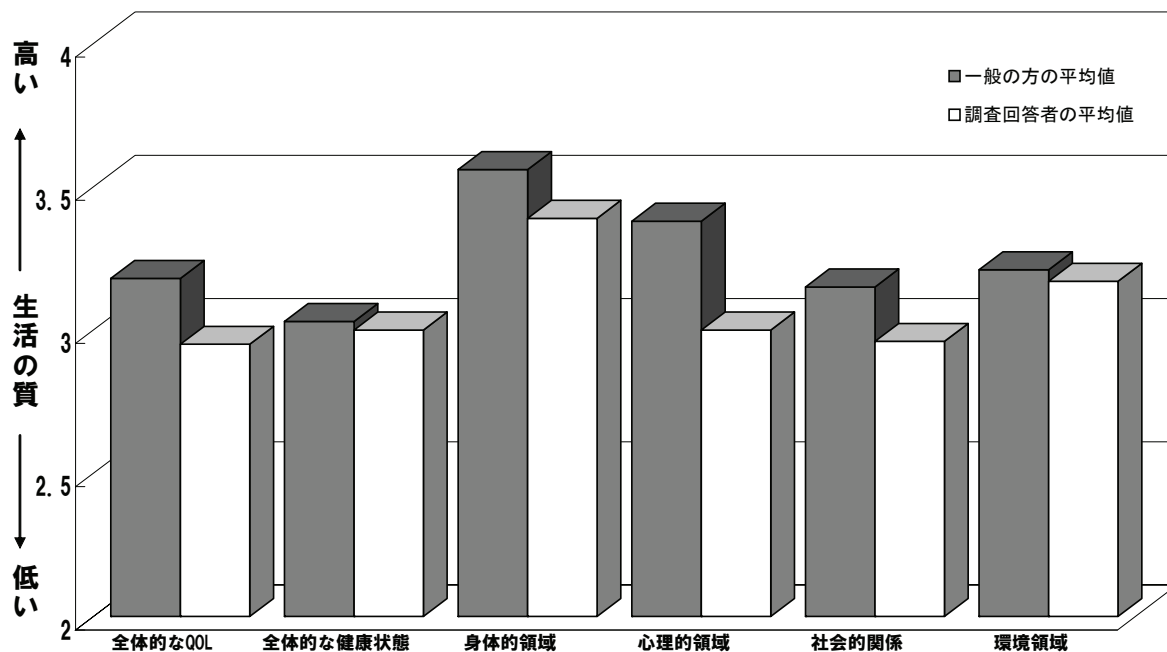


図 1-22 家族回答者の生活の質

⑱家族回答者の引きこもり本人に対する社会的スキルの程度

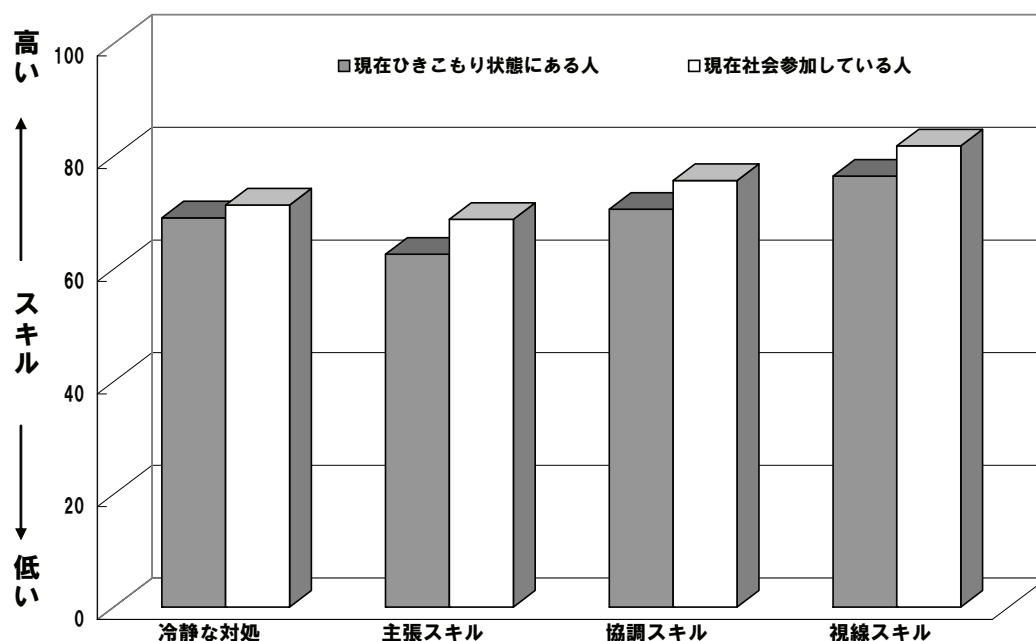


図 1-23 家族回答者の引きこもり本人に対する社会的スキル得点

図 1-23は、現在引きこもり状態にある人について回答した家族回答者と、現在は社会参加している人について回答した家族回答者の社会的スキルを示しています。現在引きこもり状態にある人について回答した家族回答者の社会的スキルは、現在は社会参加している人について回答した家族回答者よりも、引きこもり本人に対する社会

的スキルが低いことが分かります。この差は統計的に有意な差になっています。

この結果から、現在引きこもり状態にある人がいる家族は、現在社会参加している人がいる家族と比べると、「主張スキル」、「協調スキル」、「視線スキル」が低いということが分かります。一方で、「冷静な対処」では、現在引きこもり状態にある人がいる家族と現在社会参加している人がいる家族に統計的に有意な違いが認められないということが分かります。

⑳引きこもり本人との関係における家族回答者の幸福感

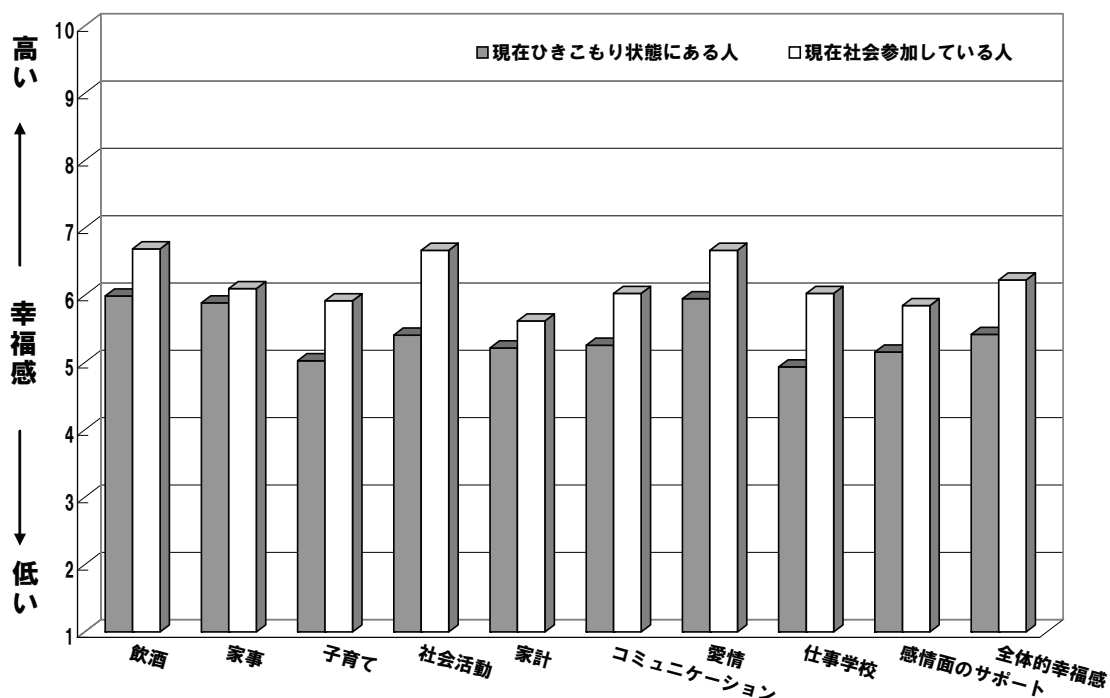


図1-24 家族回答者と引きこもり本人との関係における幸福感

図1-24は、引きこもり本人との関係性における家族回答者の幸福感を、現在引きこもり状態について回答した家族回答者と現在社会参加している人がいる家族回答者に分けて示しています。この結果から、現在引きこもり状態にある人がいる家族は、現在社会参加している人がいる家族と比べると、いずれに領域においても幸福感が低いことが分かります。特に、「子育て」、「社会活動」、「仕事・学校」、「全体的幸福感」における差は統計的に有意な差であることが示されています。家族支援では、こうした観点から家族と引きこもり本人との関係を改善することも目標にする必要があると考えられます。

第二部 本人調査

1. 目的

本調査においては、本人調査回答者の生活の質（Quality of Line : QOL）, 及び来談する際に必要なサポートと情報について調査を実施しました。

2. 調査方法

(1) 調査対象者

NP0法人全国引きこもりKHJ親の会の支部会, 準地区会が平成21年11月～平成22年1月に開催した月例会において調査を実施しました。月例会の当事者の会に参加している方内, 調査協力の得られた91名の回答が解析に用いられました。ほとんどの回答者には, 月例会において調査用紙を配布し, その場で回収しました。しかし, 各支部会, 準地区会の運営の事情から, 配布したものを持ち帰ってもらい翌月の月例会に記入の上持参したものを回収したり, 郵送による配布, 回収を行った回答者もいらっしゃいました。

(2) 調査内容（注：調査内容の詳細は, 巻末の資料を参照してください）

①基礎情報 本人調査回答者に関する以下の情報について回答を求めました。

- 現在住んでいる都道府県
- 性別
- 年齢
- 引きこもりの期間
- 引きこもりの程度
- 相談機関利用状況
- 不登校経験
- 就労経験
- パソコン・携帯電話・ゲームの利用状況

②本人調査回答者の生活の質

生活の質（Quality of Line : QOL）を測定するために, 家族調査同様にWHO QOL 26（田崎・中根, 2007）を金子書房の許可を得て用いました。この尺度では, QOLについて, 全体的なQOL, 全体的な健康状態, 身体的領域, 心理的領域, 社会的関係, 環境領域について測定することができます。

④来談に必要なサポートと情報

伊藤（2004）, 岩瀬・池田（2008）などを参考に, 来談に必要なサポートについて9項目, 来談に必要な情報について20項目を用いました。

⑤本人調査回答者の体験の回避

体験の回避とは、「自分にとって好ましくない思考，感情，感覚，他の私的出来事を回避すること」とされています（Hayes, Wilson & Strosahl, 1996）．本人調査回答者の体験の回避の強さを調べるために，木下ら（2008）が作成した日本語版 Acceptance and Action Questionnaire-II（AAQ-II）を制作者の許可を得て使用しました．AAQ-IIは9項目から構成されています．

4. 結果

1. 基礎情報

①本人調査回答者が住んでいる都道府県

表2-1 本人調査回答者が住んでいる場所

地方	都道府県	人数	地方	都道府県	人数
北海道・東北地方	宮城県	1	近畿地方	大阪府	4
	青森県	3		京都府	2
	岩手県	6	中国地方	山口県	3
甲信越地方	富山県	1		岡山県	3
	関東地方	千葉県	18	四国地方	香川県
東京都		6	高知県		2
埼玉県		3	徳島県		1
栃木県		2	九州地方	宮崎県	1
茨城県		1		沖縄県	1
東海地方	静岡県	5	不明	7	
	愛知県	18	合計	91	

表2-1に示したとおり，本人用調査用紙回答者が住んでいる場所は20都道府県に分布しています．各地方の割合としては，北海道・東北地方が11.0%，甲信越地方が1.1%，関東地方が33.0%，東海地方が25.3%，近畿地方が6.6%，中国地方が6.6%，四国地方が6.6%，九州地方が2.2%，不明が3.6%となっています．千葉県や愛知県は回答者が特に多いことがわかります．これらの県では，親の会が運営している居場所に本人調査回答者が多く参加しているものと考えられます．

②本人調査回答者の性別

性別は男性が81.3%，女性が13.2%，不明が5.5%でした．家族調査よりも男性が多い傾向にあります，ほぼ同様の結果です．

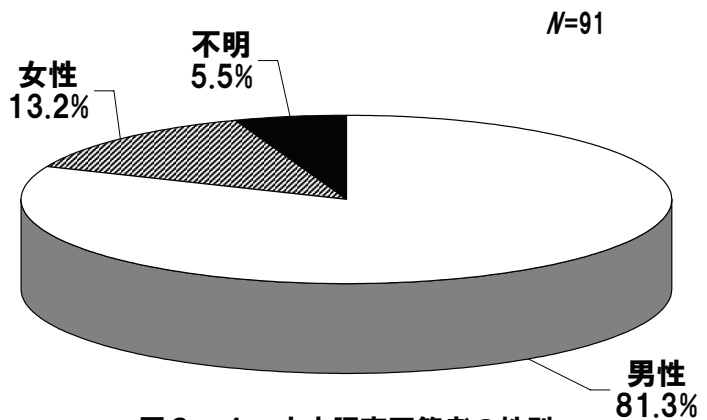


図2-1 本人調査回答者の性別

③本人調査回答者の年齢

本人用調査用紙回答者の平均年齢は30.2±6.6歳であり，最年少が18歳，最年長が45歳でした．

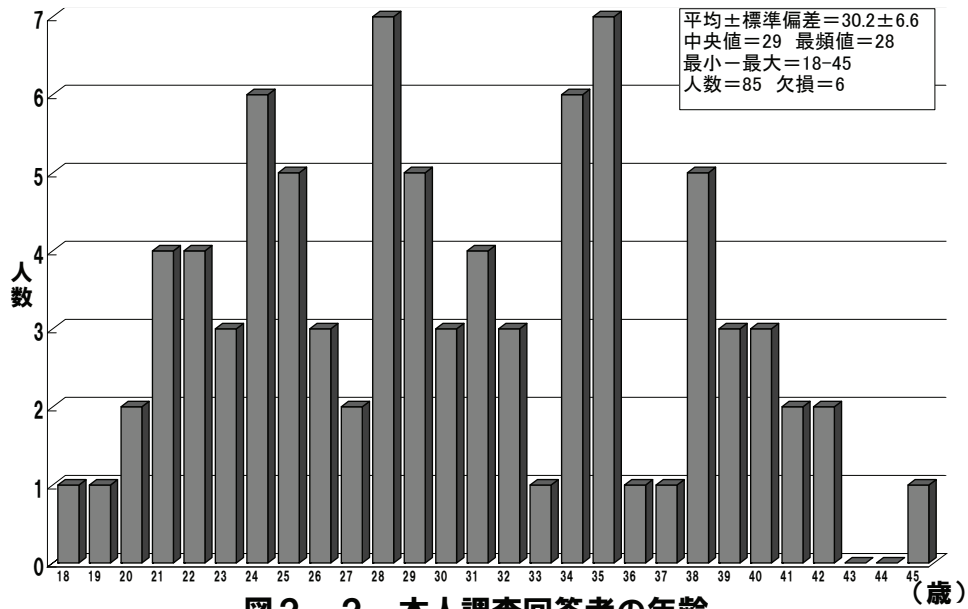


図2-2 本人調査回答者の年齢 (歳)

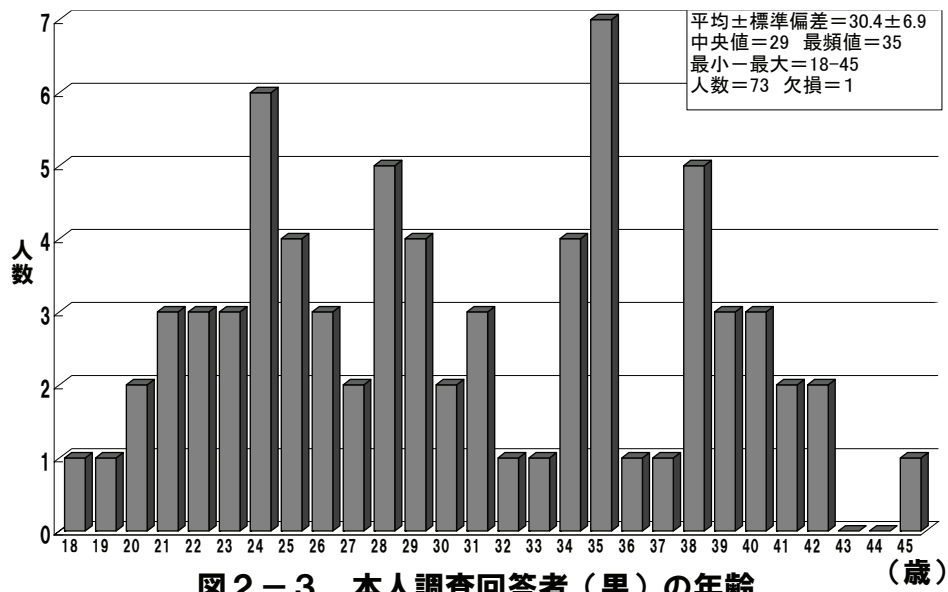


図2-3 本人調査回答者(男)の年齢 (歳)

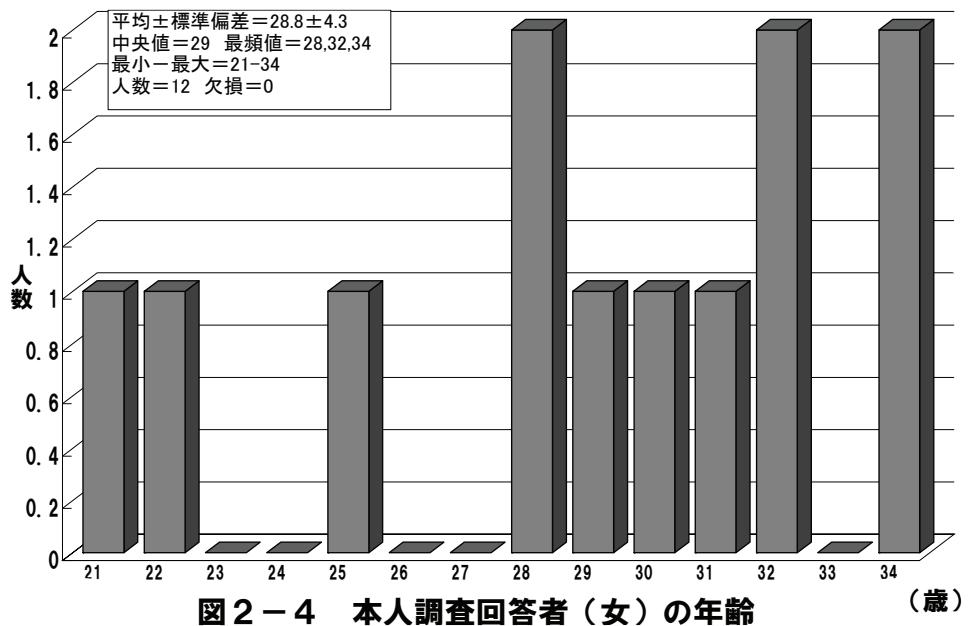


図2-4 本人調査回答者(女)の年齢 (歳)

④引きこもり期間

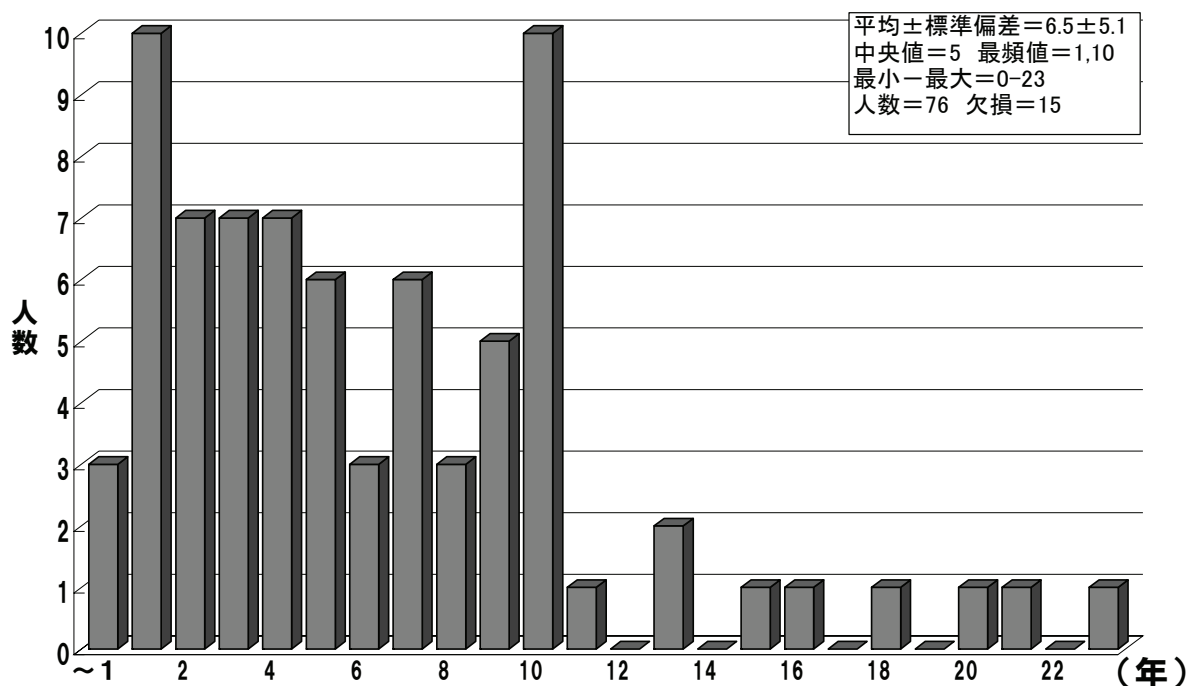


図2-5 本人調査回答者の引きこもり期間

平均の引きこもり期間は6.5±5.1年，最大が23年でした．本人調査回答者の引きこもり期間は，家族調査の結果よりも短い傾向があります．

⑤引きこもりの初発年齢

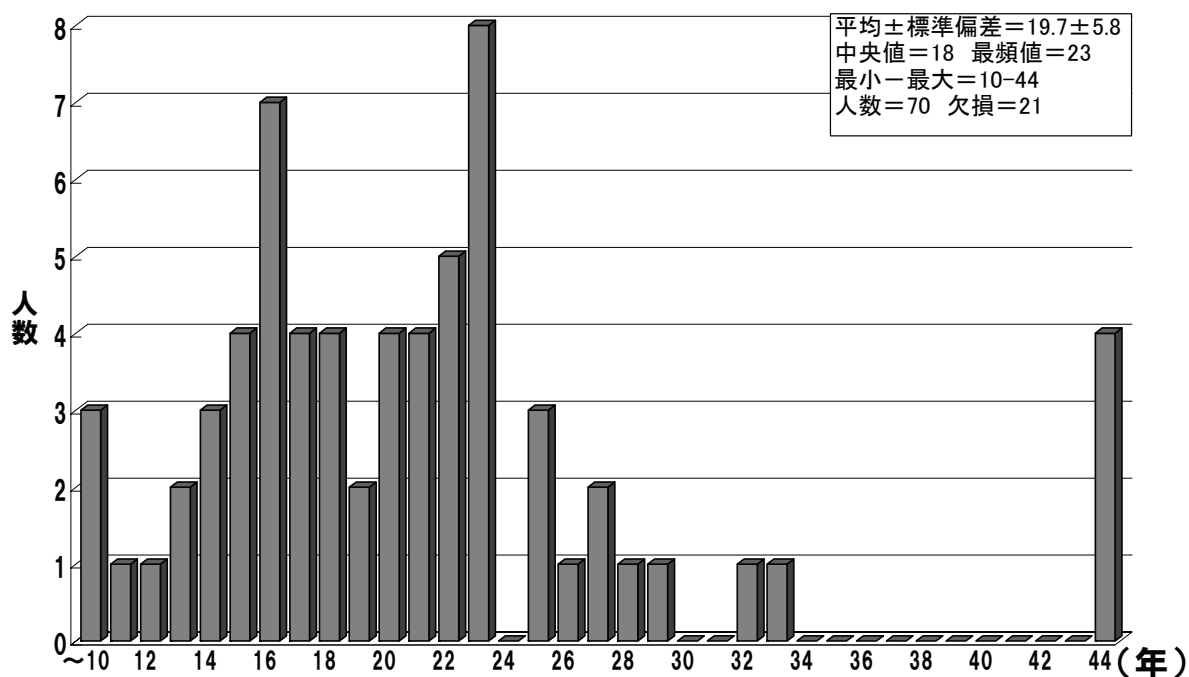


図2-6 本人調査回答者の引きこもり初発年齢

引きこもりの平均初発年齢は、 19.7 ± 5.8 歳、最大が44歳でした。この値は、家族調査の値と同程度でした。

⑥引きこもりの経験回数

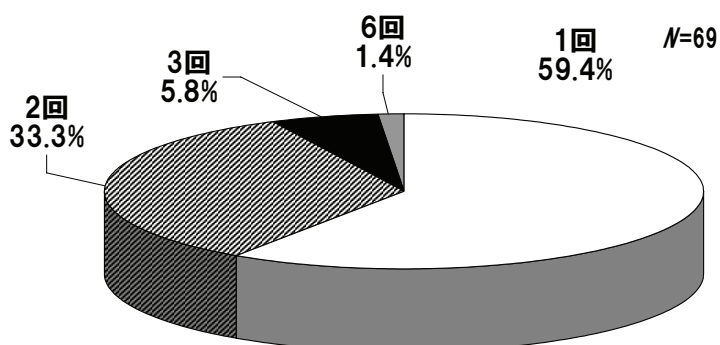


図2-7 本人調査回答者の引きこもり経験回数

引きこもりの経験回数に関しては、1回が59.4%であり、2回が33.3%、3回が5.8%でした。この結果から、複数回引きこもりを経験している人が約4割に上ることがわかります。複数回引きこもりを経験している人が家族調査よりも多いのは本人調査回答者の特徴といえます。

図2-6に示されたように、家族調査よりも本人調査の方が引きこもり期間が短いのは、複数回引きこもりを経験している人が多いことが関連しているかもしれません。

⑦引きこもりの程度

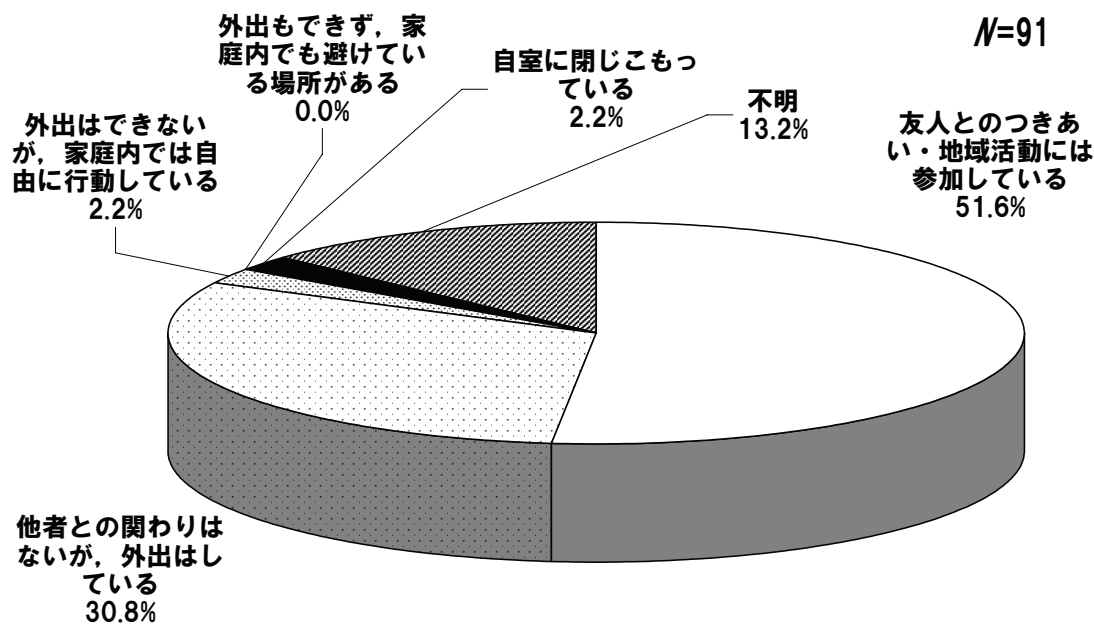


図2-8 本人調査回答者の現在の引きこもりの程度

図2-8は引きこもりの程度を表しています。「友人とのつきあい・地域活動には参加している」人が最も多く51.6%を占めています。家族調査と比較すると、引きこもりの程度の軽い人が多いといえます。親の会の居場所に参加している本人調査回答者は、引きこもりの程度が軽く引きこもりからの回復過程にいる人たちであると考えられます。

⑧不登校経験

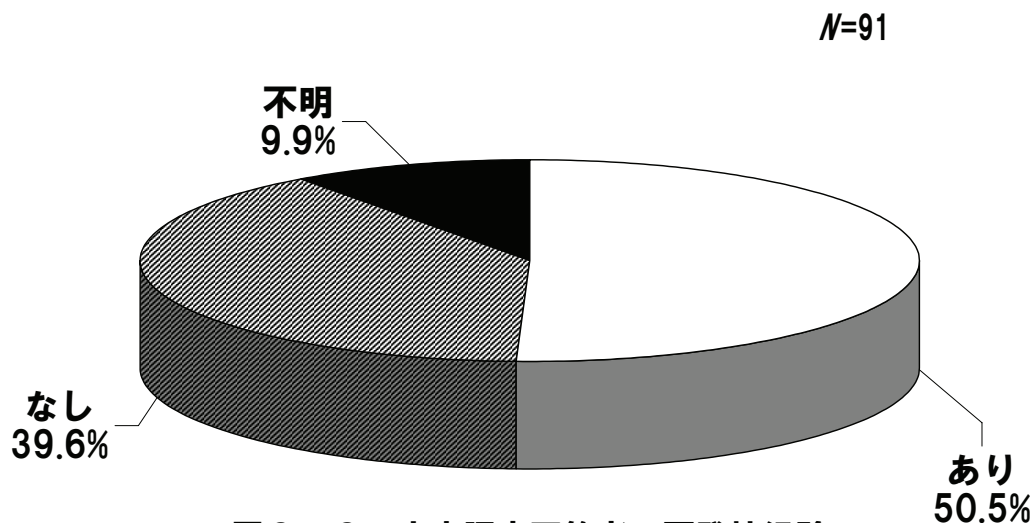


図2-9 本人調査回答者の不登校経験

不登校の経験のある人は50.5%と家族調査とほぼ同程度の値になりました。

⑨就労経験

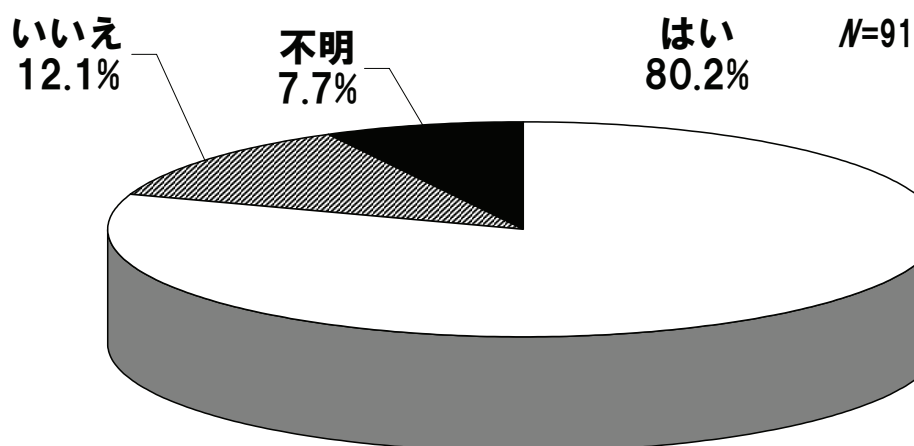


図2-10 本人調査回答者の就労経験

就労経験のある人は、80.2%に上り、家族調査よりも高い傾向にあります。親の会の居場所に来ている本人調査回答者は、就労を経験している人が多いのが一つの特徴であるといえます。

⑩パソコン等の利用

本人調査回答者の携帯電話の利用率は71.4%、ゲーム機が59.3%、パソコンが59.3%でした。家族調査では、パソコン、ゲーム機、携帯電話の順に利用率が高かったのですが、本人調査回答者においては逆の傾向にあります。携帯電話の利用率が高いことは、親の会に参加している人のほうが、他者とのかかわりを持ち始めているためと考えられます。

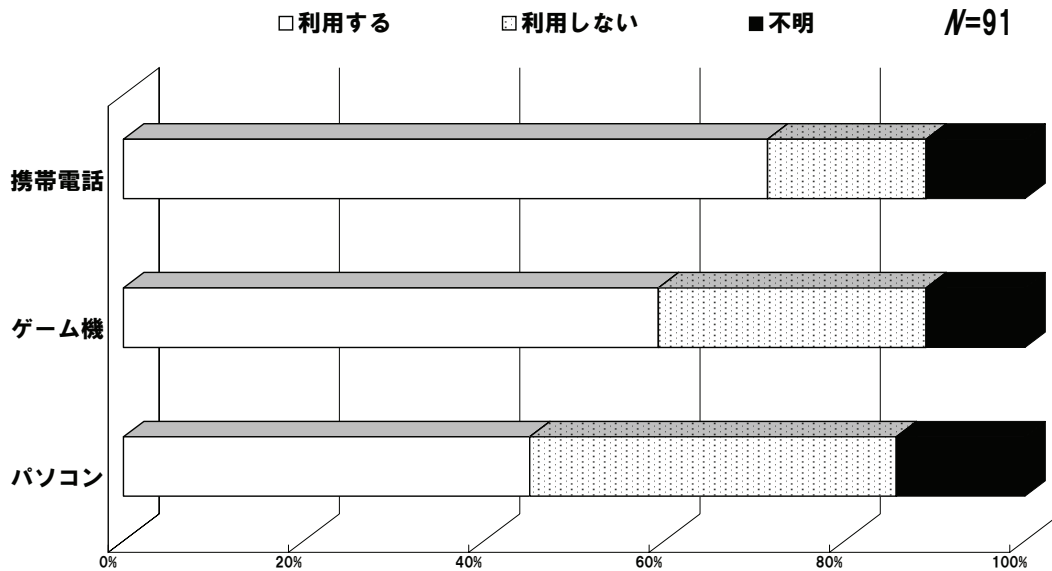


図2-11 本人調査回答者のパソコン、携帯電話、ゲーム機の利用

⑪パソコン等の一日の利用時間

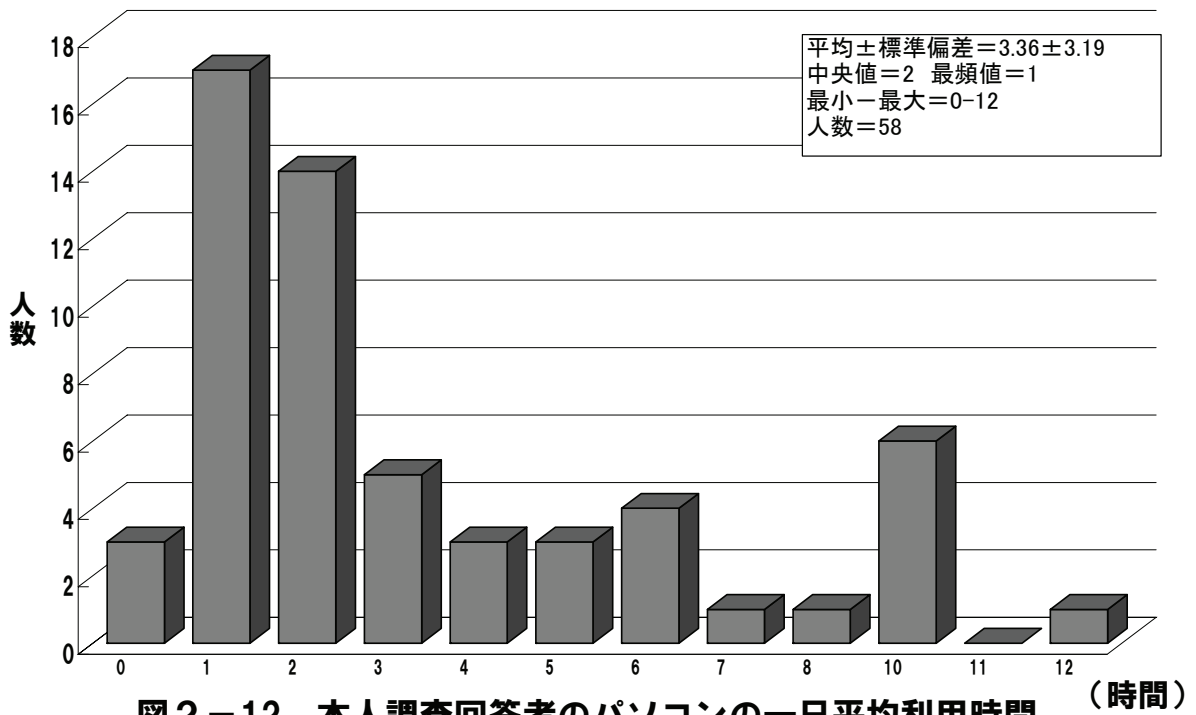


図2-12 本人調査回答者のパソコンの一日平均利用時間 (時間)

パソコンの1日の平均利用時間は3.4±3.2時間、携帯電話の利用時間は1.5±2.6時間、ゲーム機は1.5±1.8時間でした。いずれも家族調査よりも利用時間は短い傾向があります。

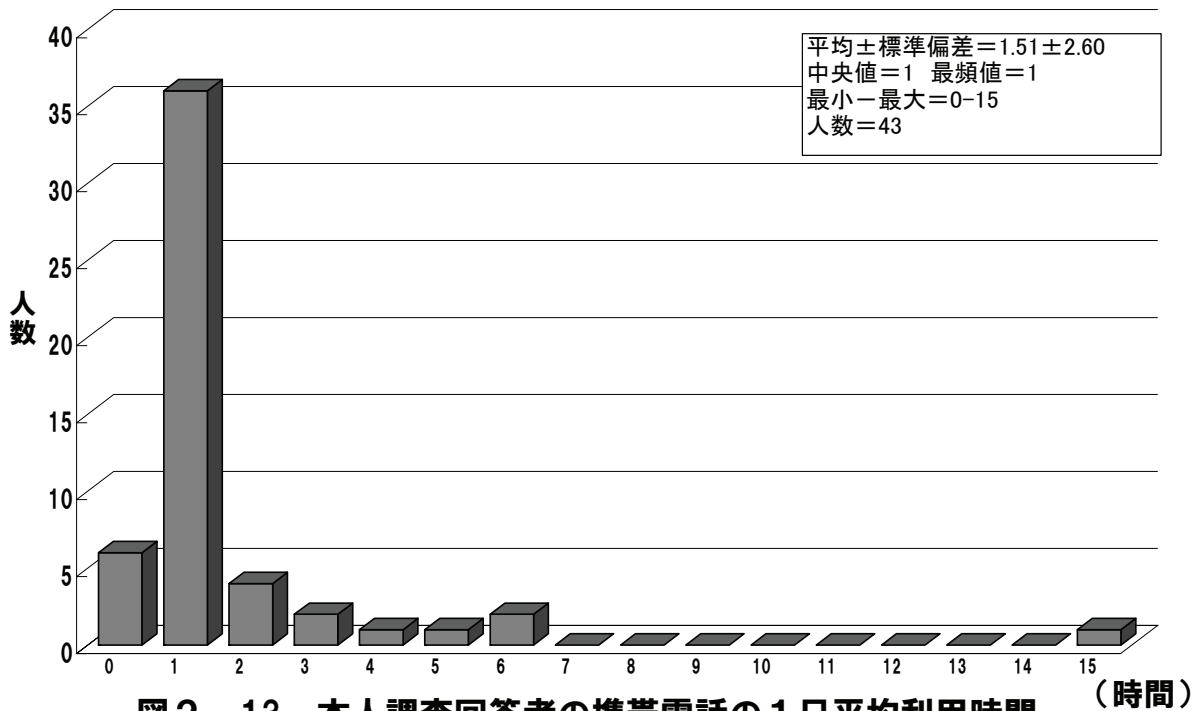


図 2-13 本人調査回答者の携帯電話の1日平均利用時間 (時間)

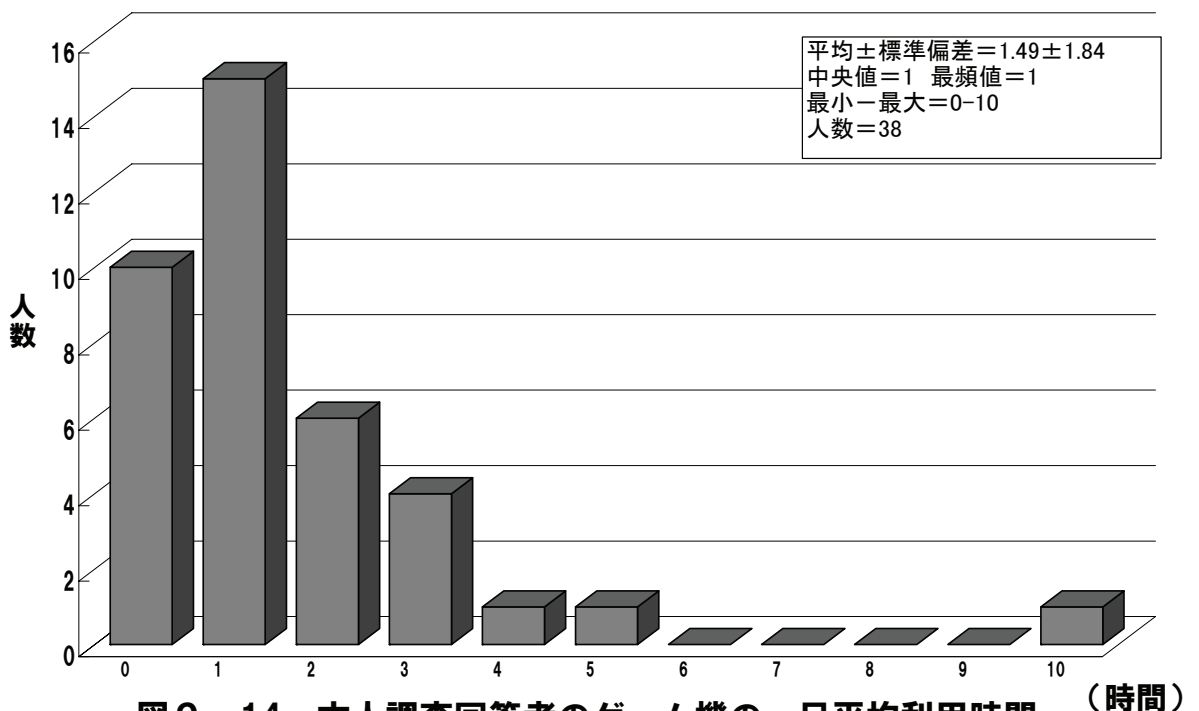


図 2-14 本人調査回答者のゲーム機の一日常利用時間 (時間)

⑫パソコン等の利用目的

引きこもり経験者がPC等を利用する目的は、サイトを見るが65.9%、電子メールが45.1%、ゲームが34.1%、書き込みが13.2%、チャットが6.6%でした。このことから、家族調査における引きこもり本人とは異なり、本人調査回答者のPC等の主な利用目的はサイトを見たり、電子メールをするといった外部との接触に関わることでありといえます。

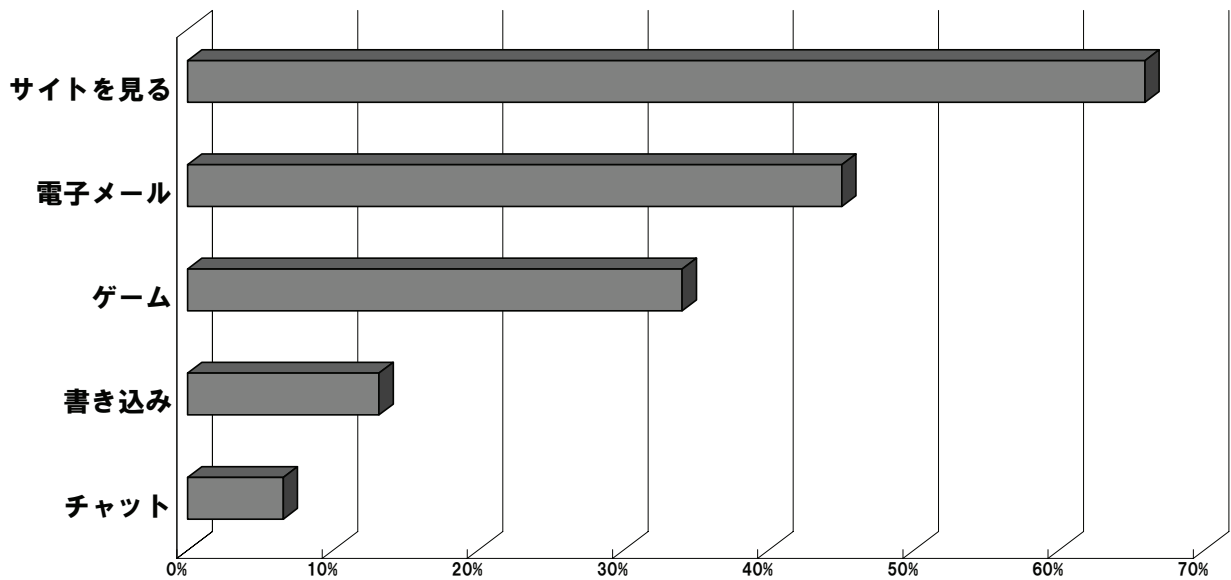


図2-15 本人調査回答者のパソコン，携帯電話，ゲーム機の利用目的

⑬相談機関の利用状況

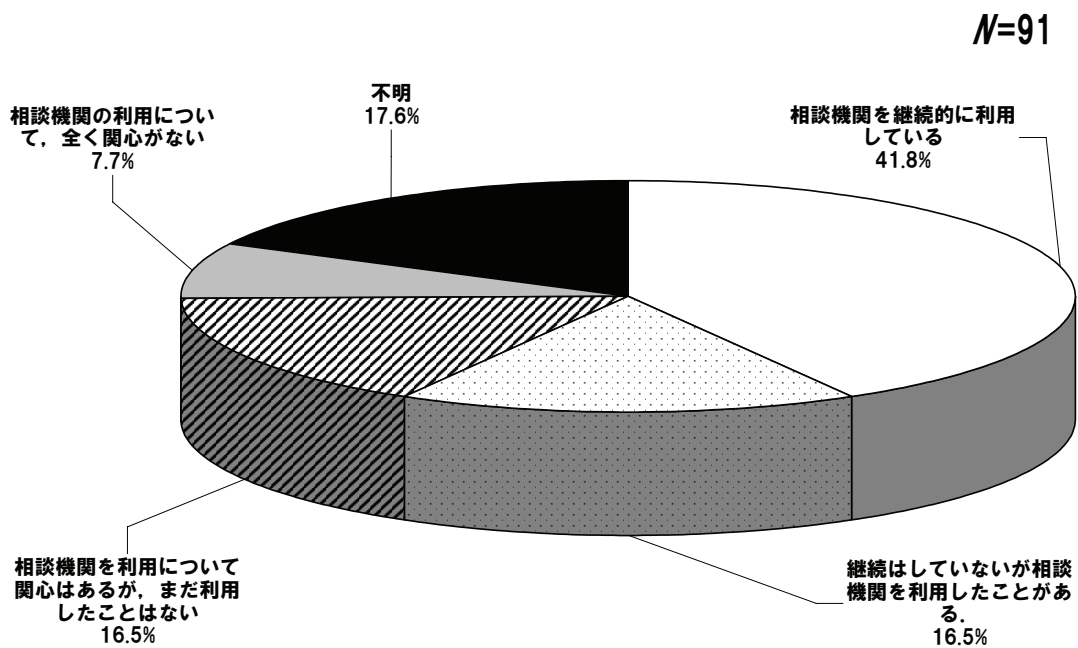


図2-16 本人調査回答者の相談機関の利用状況

本人調査回答者の相談機関の利用状況は、継続的に利用している人が41.8%と家族調査の19.3%と比べてかなり高いことがわかります。相談機関を継続的に利用できていることが引きこもりからの回復に寄与しているものと考えられます。

⑭生活の質

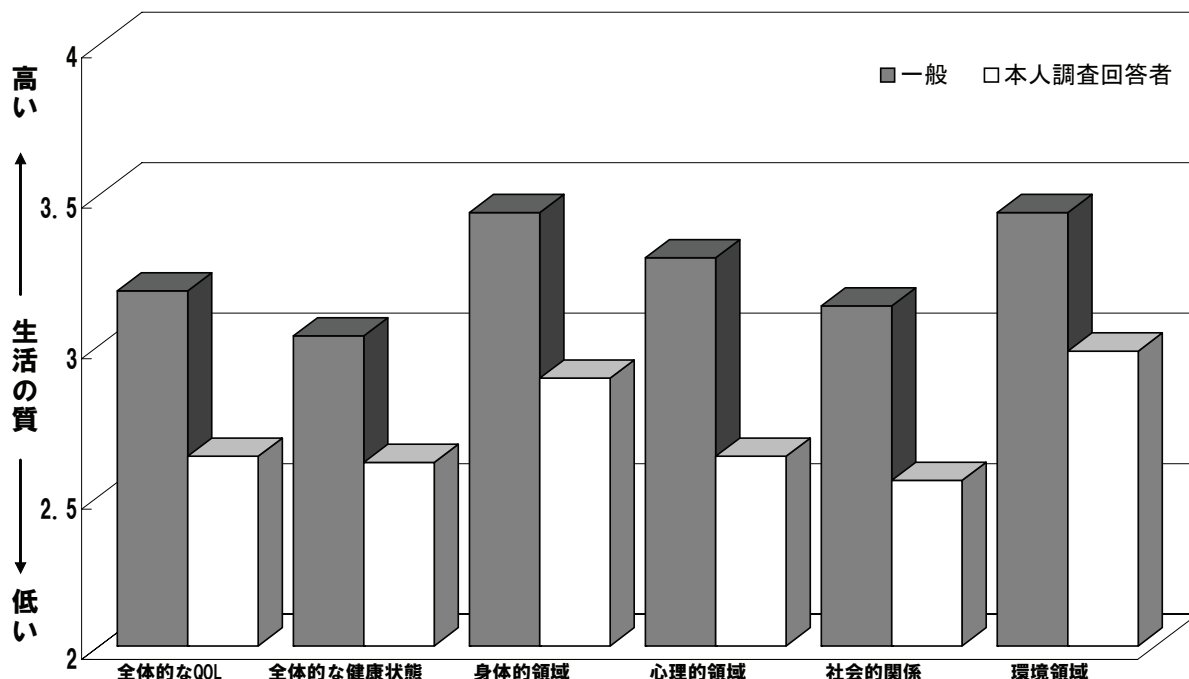


図 2-17 本人調査回答者の生活の質

本人調査回答者の生活の質は、田崎・中根（2007）に示されている一般の30代方の平均と比べて低いことがわかりました。本人調査回答者が生活の質を高め、心身ともに豊かな充実した生活ができるような支援をしていく必要があるといえます。

⑮来談する際に有効なサポート

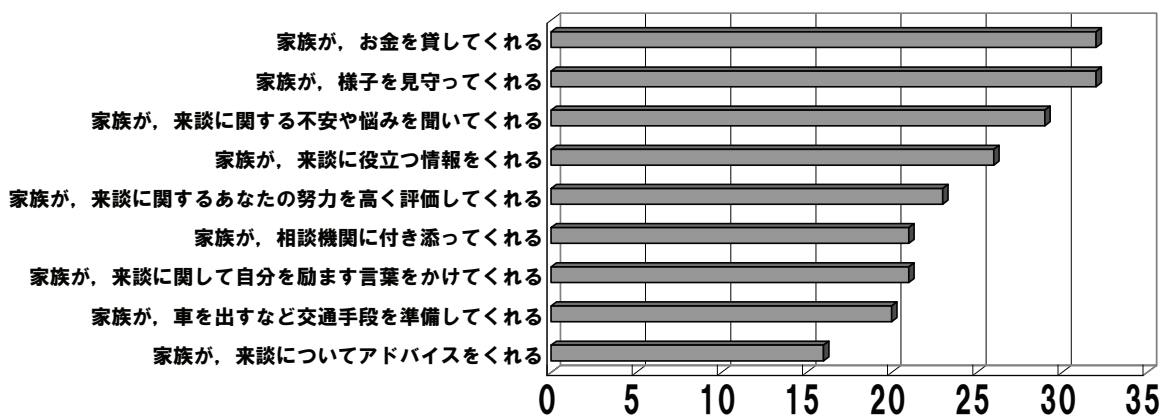


図 2-18 本人調査回答者が来談する際に有効な家族からのサポート (人)

相談機関に来談する際にどのような家族からのサポートが有効かについて、本人調査回答者65名の結果を図 2-18に示しています。

「家族からの経済的支援」と「家族が見守ってくれること」は、有効回答数の約半数の人が「有効である」と回答しており、必要性の高いサポートであると考えられま

す。また、「家族が、来談についてアドバイスをくれる」という項目を除いた全ての項目について、30%以上の方が有効であると回答しました。このような結果から、ご本人が相談機関に来談しようとする際には、ご家族の金銭的援助、見守る姿勢、そして悩みを聞くといったサポートが有効であると考えられます。しかしその一方で、多くの方が有効と回答した項目はなく、本調査で用いた内容以外のサポートについても検討していく必要があるといえます。

⑯来談する際に知りたい情報

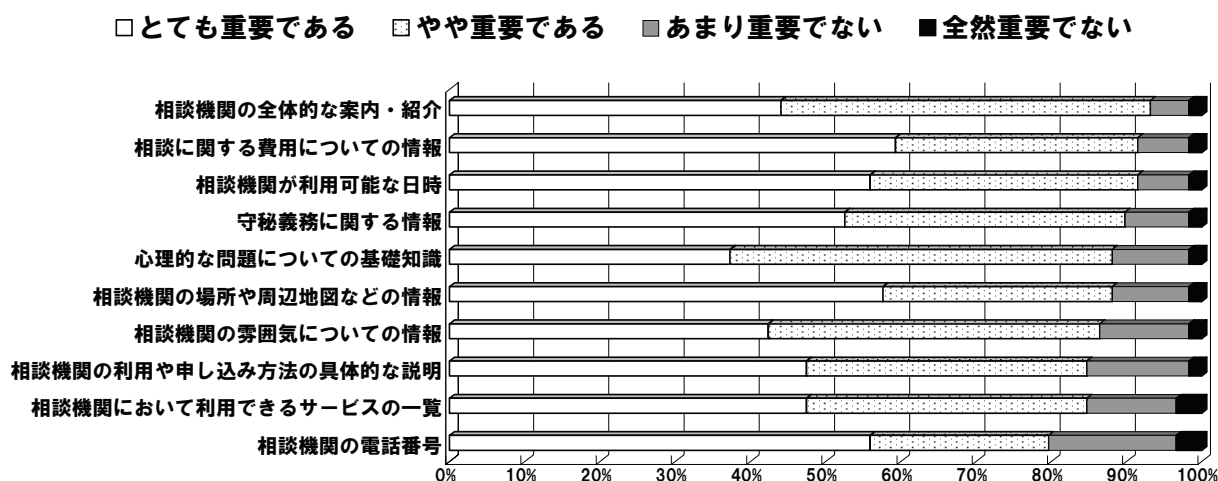


図2-19 本人調査回答者が来談する際に知りたい情報(1)

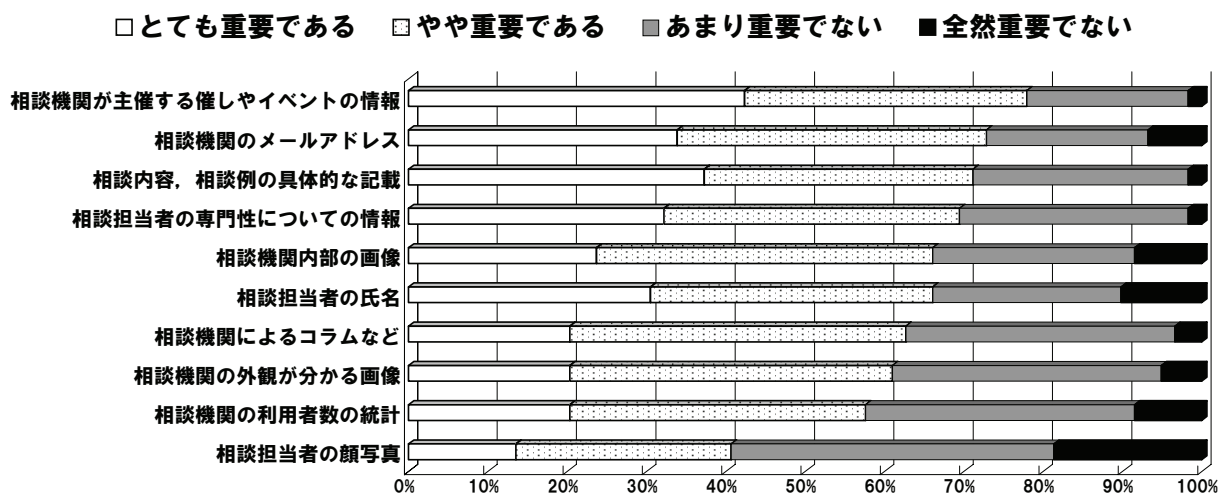


図2-20 本人調査回答者が来談する際に知りたい情報(2)

本人調査回答者が相談機関に来談する際に重要であると感じた情報、もしくは、来談するかどうかを決定する際に重要である情報について調査を行いました。図2-19の全ての項目は重要だと回答した人の割合が80%を超えており、非常に重要な情報であると考えられます。「心理的な問題についての基礎知識」の重要度の高さからは、心理的な問題を抱えている人が多い可能性が考えられます。また、心理的問題の基礎知識を得ることが、相談機関の必要性や有効性の判断に関わっていることも考えられま

す。さらに、相談機関の雰囲気についても伝える必要があります。境ら（2008）では、相談機関の抵抗感として「新たな人間関係への不安」が挙げられていることから、相談機関の雰囲気を伝えるなどの情報提供が来談を促進するために有効と考えられます。

図2-20の項目においても、「相談担当者の顔写真」を除いて、80～60パーセントの人が重要な情報であると回答しました。本人が来談をしやすくするためには、このような重要な情報を、分かりやすく、入手しやすい方法で提供することが必要となります。また、「担当者の顔写真」については、他の情報に比べ来談の促進には影響を与えないものと考えられます。

⑰体験の回避

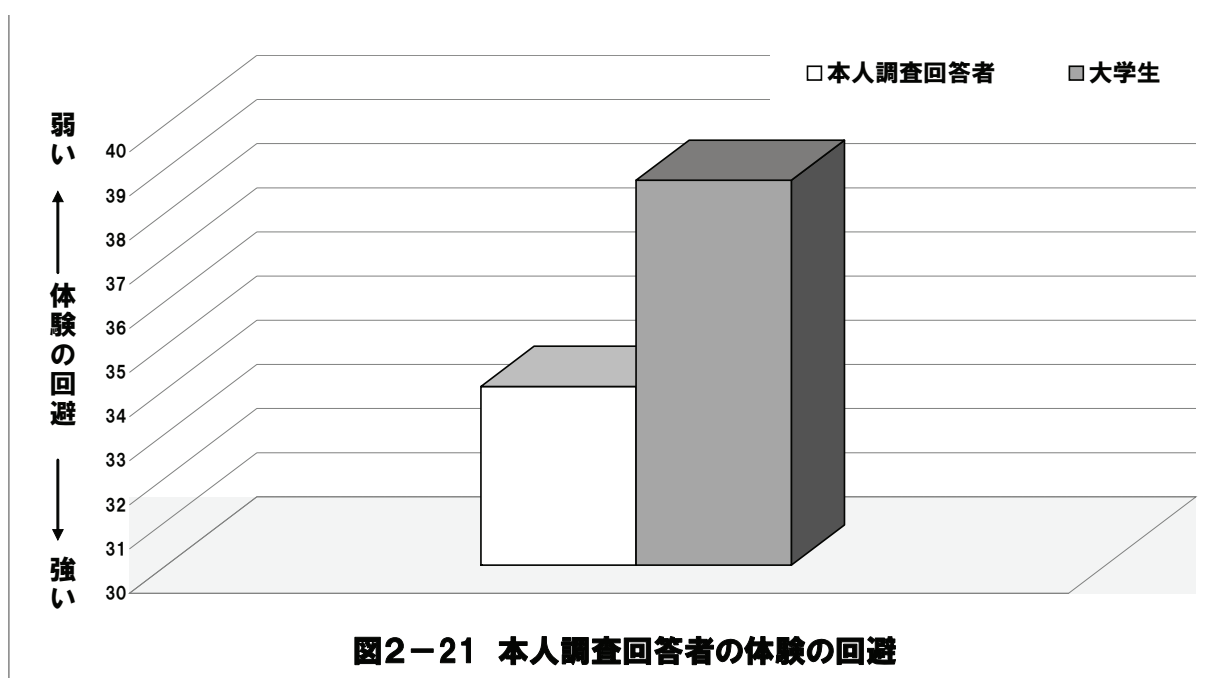


図2-21は、体験の回避の強さを本人調査回答者と木下ら（2008）で示されている大学生とで比較したものです。平均点が低いほど、体験の回避の傾向が強く、不適応状態に陥りやすいとされています。図2-21から、本人調査回答者の方が大学生よりも体験の回避の傾向が強いことが分かりました。このことは、本人調査回答者は「自分にとって好ましくない思考、感情、感覚、他の私的出来事を回避する (Hayes, Wilson & Strosahl, 1996)」という体験の回避が強いことを示しています。体験の回避は、様々な心理社会的な問題につながるとされており、引きこもり本人への支援においては、こうした心理的側面についても扱っていく必要があると考えられます。

第三部 自由記述

自由記述で以下のことについて回答を求めました。

1. 引きこもり状態で悩まれているご本人とご家族の「生活の質（QOL）」を向上するために望む支援.
2. 全国引きこもりKHJ親の会に望む活動

以下には、それぞれの質問についての回答を引きこもり経験者と家族回答者に分けて記載しています。自由記述の内容は、実態を示すため記載された内容を忠実に再現していますが、個人が特定できないように記述の趣旨が損なわれない範囲で編集しています。また、丸数字（例：①）で示された自由記述の分類は、該当する自由記述が多い順に記載しています。なお、大半の自由記述は掲載しておりますが、記述の量や重複を考慮し、掲載されていない自由記述があります。

1. 引きこもり状態で悩まれているご本人とご家族の「生活の質（QOL）」を向上するために望む支援.

<本人調査回答者の自由記述>

①居場所

- ・現在、引きこもり状態の自分にとって、会の出会いがなければと思うと…恐いです。人間は居場所というものがいかに大事であり、同じような悩みを持った人たちとの出会いは人生観を変えてくれました。今、前の職場でのいやな思い出を再燃させてしまいましたが、ようやく気持ちの整理が出来てきたような気がします。感謝の気持ちを忘れず、ひたむきに努力したいと思います。
- ・友達が出来る機関。運動が自由にできる機関。プライベートでもつきあいが出来るように。女友達もできるように。（同年代で。）
- ・本人さんたちの居場所づくりを提供するのが、時間をかけても向上できることにつながると思います。
- ・引きこもりフリースペースの様な仲間と交流出来る場所を増やしてほしい。
- ・居場所をふやしてほしい。お金がかからずいられる居場所
- ・一人になることなく、人と交流ができ、会話ができる場所が欲しいです。
- ・中間施設。たまり場と職場の中間にあるもの。
- ・現在引きこもりの人や過去に引きこもりだった人が交流できる支援を望みます。
- ・同じ引きこもり状態を経験した人同士の交流の場の提供。
- ・安心できる選べる居場所。
- ・本人が安心安全を感じられる居場所。
- ・継続的に通える居場所。
- ・引きこもり支援を名乗る団体や施設には、横のつながりを求めます。

②支援の充実

- ・パソコンが好きな人はパソコンの技能を学んだり、絵を描くことが好きな人は絵を描くことを学んだりすることができるような、それぞれの人が持っている能力を伸ばすような支援を望みます。現在引きこもりの人や過去に引きこもりだった人が交流できる支援を望みます。
- ・16年間、引きこもり生活を送ってきたが、いつまでも親に頼ることは、したくないと思い、グループホームへ入所した。引きこもりのとうじしゃが利用しやすいサービスをもっと広げてほしい。
- ・私の話をキいてくれる人がほしい。

- ・解決策を一緒に考えてくれる.
- ・適切なカウンセリングの充実.
- ・カウンセリング機関の向上（質と数）.
- ・精神障害者の(福祉の)法律についてももう少しけんとうしたほうが良い.
- ・相談員を増やしてほしい(気軽に相談できる所).
- ・もう少しサポーターが増えてくれる.
- ・都会のようにいろいろあればいい.
- ・訪問支援サポートのようなものがよい.

③自立支援

- ・地域にある個人経営の店や団体などと協力し、就労体験など、引きこもりを支援して頂けるようにしてもらいたい.
- ・自分にとっての目標は仕事を持って、自活することと、友人関係の輪を作ることです.
- ・段階的な自立支援. 人はいきなりは変わらない. 少しずつ自信をつけて、社会へでていくようになると思う.
- ・仕事に活かせる資格取得のためのサポートの充実と就労体験の充実を望みます.
- ・働く場所を見つける為の支援/職業訓練.
- ・自分らしく働くことができる職場で適職に就きたい.
- ・就職するための相談, 活動など.
- ・恋愛もしたい.

④情報提供

- ・住所地の県内で相性が合う, 医療施設, カウンセリング. 家族自身の機能不全の問題を回復できる医療施設, カウンセリング. 家族の会(セルフヘルプグループ)の情報. それらの利用者の体験談を聞く機会.
- ・全国にある施設, 資源も含む.
- ・支援機関や相談機関の存在に関する情報をもっと広く開示して欲しい.
- ・県の機関や保健所から理解ある対応を得たことはほとんどありません.

⑤経済的支援

- ・診察料がもう少し安くなって欲しいと思います.
- ・お金が欲しい. 彼女欲しい. でも結局自分しだいです.

<家族調査回答者の自由記述>

①経済的支援

- ・生活機能障害と云うことばを始めて知りました. ぜひ年金支給されるといいと思います.
- ・親が死亡した後の本人の生活費の確保手段を何処にすべきかについて悩まされています. ついては法的救済措置の整備と適用基準を示してほしい.
- ・年金生活で生活費が苦しい. 引きこもりが長く, すぐに就業は困難. その内に20代→30→40と年齢が進み, 親は60才→70才→80才となる. よって, 国の障害者認定援助金と同じ.
- ・経済的な問題, 底辺であっても人並みに暮らす為身心共に疲れていても働いているが返済に迫られると(地農の修理代, 引きこもり者の借金返済分)何の為に生きているのかわからない.

- ・本人は外部とつながっていないので、医者の証明書も出ない。このまま年をとったら、親がいなくては生きていけないので、収入源として、生活保護の対象にしたい。
- ・本人は、生活力がないので年金とか小遣いをあげている。これから先かなり負担になります。経済的に何とか援助してほしい
- ・やはり、これからの一人で生きていく生活が心配です。経済的な支援がいただけるとありがたい。
- ・精神治療とカウンセリングに子供を通わせているが、カウンセリング代が非常に高く、退職した身にとっては経済的負担が重く、治療費免除を望む。本人と家族の関係が、長い引き込み期間の為にこう着している。
- ・引きこもり本人への生活費、カウンセリング等の補助。引きこもりの住宅保障。親、亡き後の保障・後見人制度はお金がかかり実際は、お金のある人でないと利用できない。又本人がその手続き等はできない。
- ・引きこもりを抱えていることで、家計を圧迫しています。この不況で、生活の質はどんどん落ち込みます。どん底まで落ちるまでは支えていこうと思っていました。ギリギリの所で、働かせていただけるところが見つかり、生活の質は並にはなった様な気がしています。しかしこの不況で、いつ首切りがあるのかも大変心配です。
- ・現在は全く家から外へ出らる状態ではありません。国の金銭的な援助を期待。
- ・何よりも引きこもりの子が一日もはやく、元気になり、活動でき、人とつきあえるようになることしか考えられない。
- ・別居のため二所帯で生活費が必要。本人が病院へは行かず、何をしたいかわからない。同居を試みる様に勧められたが拒否された。今のまま一人ぐらしで公的資金援助がほしい。
- ・訪問支援の際、経済的な負担が非常に大きくなりますので行政なりの経済的支援があると助かります。また、将来の生活面での不安も大きいのですが何らかの支援があればと願っています。
- ・家族の会の質向上の為に経済的支援を望む＝心理士1名を常駐出来る経済支援。
- ・経済状況、特に退職後をどうするか。
- ・引きこもり本人に経済的支援、障がい年金が出るようにしてほしい。
- ・引きこもりの当事者にも障害者年金が早くおりにすることを望んでいます。
- ・公的年金、福祉制度の拡充強化等。
- ・子供達の通院費の支給があったら良い。
- ・医療にかかる時、負担を軽くしてほしい。
- ・カウンセラー料などの補助がほしい。

②家族支援

- ・ケースワーカーやソーシャルワーカーに生活向上（親子関係しゅう復）のためのプランを立ててもらいたい。現在は、親子が別居しているので同居するための方法を一緒に考えてほしい。どうしても子供が、家に帰りたがらないので困っている。また帰って来たとしても家族関係がぎくしゃくしているので心配。父親が家族の事について全く無関心で真剣に考えてくれないので私自身のイライラがつのる。
- ・本人と会話ができるようにならなければ何も始まらない状態となっている。なんとかしなければとあがいている。
- ・第三者の風を入れる事。子供との心からの対話ができる事。子供の本音が聞きたい。（今の状態で満足しているのか？）
- ・親の考えを変える心掛けが必要である。子供の考え、行動をまず受け入れる。

- ・引きこもりの子供に声かけのテクニックを知りたい。
- ・本人とどのように家の中でコミュニケーションをとればよいのかなど教えてほしい。
- ・長い引きこもり状態で表面上は安定しているようにみえるが、このままの生活を続けて行くだろう不安が（親，本人も）大で、何とかならないものかと思うが。
- ・本人が心を閉ざし，壁を作っているため，支援を受けることが難しいです。何とか良い方法はないもののでしょうか？
- ・何年も何年も心が通じ合うことが出来ません。本人は「ずっと反抗期だよ」と言います。
- ・私は自分の事がよくわかっていないのでいろいろと教えて下さい。そしてこれからも私の相談に乗って下さい。宜しくお願い致します
- ・本来は，親と子の関係はもっとシンプルで，親が欠けているものがあるため，子にも，欠けた状態でしか伝わらない。もっと別な視点からのアプローチが必要ではないのかと考えます。
- ・本人に支援を受けさせたくても親からは言えない伝えられないのが現状なので，どうやったら本人に居場所や機関に行けるようになるのはどうしたらいいかわからない。本や，プリント（居場所・サークル）を本人の見える場所に置いても見ただけ様子がない。
- ・親が元気になる事は子供に対しても良い事と考えています。ですので親の会とかに参加して「ぐち」を聞いてもらえるとか，アドバイスをもらえたら，子供と関わりが少しでも良くなる所があれば
- ・あらゆるケースに対処する方法，ノウハウを提供してもらいたい。また，アスペルガーとも一緒に対応でよいのか，そのあたりです。
- ・精神科医に親がカウンセリングを受けました。子供の状態がアスペルガー症候群にほぼ間違いないと言われました。本を買って読みました。①子供の時アスペルガー ②大人のアスペルガー ③アスペルガーと分らずに大人になった時の接し方。本に書いてる通りの行動で有るのでかなり大変な状況になりつつあります
- ・引きこもり本人のサポートも必要ですが，親や周りの人間の心のサポートもありありがたいです。親も自分の責任に押しつぶされそうで，人に言えずに情報もなかなかわかりません。それとお金の問題もいろいろあり，年金や保険等も相談することが難しいです。
- ・夫や私自身をサポートして欲しい。
- ・支援先に受け入れる容量が少ないので共に考えていく必要があると思っている。

③就労支援

- ・不登校を経験すると親は色んな面で苦しい。子供が就職して自活するために色々な就労機会を作ってほしい。
- ・本人が外出し，生き生きと過ごして（好きな事でも）仕事はその次の問題と思う。
- ・就労（初めは週2回位のアルバイトから）について親子で話し合っています。引きこもり，軽い発達障害（診断は受けていない，本人も自覚）を理解して下さる職場環境があれば有難いなと思います。
- ・仕事をしない月日が長くなると履歴書のブランクが長くなり就職が増々難しくなり，その取りかかりを公的に支援して欲しい。
- ・就職支援について。年齢的に就職ブランクがあると，むずかしいので，引きこもりのための積極的な支援を，お願いします。もっと色々な組織があると良いと思う。
- ・障害者に対する雇用の受け入れ態勢が出来ているようにひきこもった後に就労を希

望した時に受け入れてくれる会社ができるよう国で対策をとって欲しい。

- まったく外出もせず、家族（父母）以外の関係はありません。息子の場合、学校は（大学まで）不登校もしないでおわたったのですが、就職で失敗しました。アルバイトも少しはしましたが、どこにいても人間関係がうまく出来なかったと言っていました。引きこもりもひとりひとりちがうと思うので発達障害などもあるので。
- ボランティアでも良いから外で働く場をあたえて下さい。朝から一日中家の中で何か書いています。整理とかは、やってくれます。
- 働ける所があるから引き込まなくて良いのが現状です。給料が安くても良いので引きこもりでも雇用してくれる、理解ある企業が増えれば助かる引きこもりも多くいるはずです。
- 本人は悩んでいるとは思えないが、家族にとってはとても将来が心配であり、特に、新卒でなく何年間かのあとの就労の場が確保されることに対する支援がほしい。
- 「やりたいことはない、何もやりたくない」と本人は言うが、家族の為には手伝わなければと思うのか、家のことは結構する。父親の定年後の勤務に会社の好意で社会に出る訓練として、父親の手伝（無給）として短時間付いて行っているが他人が多少でもいると緊張する、なかなか、慣れず、朝は吐き気がする、ストレスで胃が痛くなる。虫のいい話かもしれないが、マンツーマンか、ほんとうに少人数で手仕事、もの作り等をゆっくり教えてくれる所等があるといいのですが、手先は割と器用だし、まじめなところがある。動作がのろい、とっかかりも遅い、能率的な仕事はにがてである。似たタイプの人とワークシェアできるところ等があれば少しづつ向上していけると思う。
- 就労支援を充実したものにしたい。
- アルバイト、就職にむけての支援に力を入れて欲しい
- 公的支援による親の会の就労支援の作業場作り
- 現在、不安をかかえている若者が働く練習の場がないので、外出できるようになっても、ここでストップしている若者が多い。（過去に働いた経験のある若者はサポステへ行っている）社交不安のある若者も理解ある職場で働くことが可能な支援
- 就業出来るような支援を望んでいます。
- 就労するためのトレーニング等。

④居場所

- 親、子ども共に集まれる場所（リーダー、カウンセラー）が不足、あるいはない。引きこもりのレベルも多様でそのレベルに合う集える機会をつくってやること。
- 身内で気楽に相談できる場所や親も本人も集まる場所。
- 身近なところに、親、本人が出かけて行って、気軽に話したりできる様な場所がほしい。
- 本人が社会復帰できる。気軽に出ていける場所、居場所の充実。
- 本人が仲間づくりが出来る居場所があれば人と交流できる環境がつかれる。
- 居場所、フリースペースの設置を公的支援でお願いしたい。
- 本人が気楽に顔を出せる場が増えること。
- 仕事に出たり、くじけたときに戻ったりできそうな受け入れの場所（親、兄弟の世話にならないこと）。
- 子どもが行ける居場所がほしい。
- 本人及び家族の居場所を、多く作って欲しい（市に20ヶ所以上、区に3ヶ所以上、専門医の充実・増員）。

- ・本人の居場所（家庭以外で集える場所）を確保したい。
- ・家の近くに居場所があってほしいです。
- ・親はもちろん子供達が集い同年代の同じ悩みがある若者達が話したり，活動（作業，スポーツ）したり出来るような支援を望んでいます。
- ・若者が気軽に掛けられる場所，機会をもっと増やしてほしい（できれば毎日どこかの公園，公民館など）。
- ・本人が外へ出られる場所を多々機会を持ってほしい。（子供同志が関われる場の提供）
- ・居場所，仲間とおしのコミュニケーションの場etc
- ・公的支援による居場所の多数の設置。

⑤訪問

- ・いつも親（母親）と二人。他人と接すると本人の表状が明るくなる。（床屋へ行ったり，母親の友人が来たり）他の風が家の中に入ることが望ましい。訪問サポート等。
- ・外へ出るのが不安というのを，とり除く手立てが分からず苦しんでいる。（スーパーへは自転車で週3回行っているが，農園，居場所へは誘いかけているが，行かない）まず理解のある若者の訪問支援→外出に慣れる。
- ・父親が小さい頃に他界のため，男の子としての大切な育て方が欠けていると思われる。引きこもり経験者で立ち直られた方とかに助力してもらえたら良いと思うのですが。
- ・家庭の中では自由にできますが外に出る事ができないので，訪問サポートが軽い負担でできるようにしてほしいです（身体サポートも含めて）。
- ・訪問支援等で密閉されがちな家庭の風通しをしてほしい。
- ・訪問支援を希望します。現在隔週で訪問をしていただいています。出来れば複数の方の複数回の訪問を受けられたらと思っています。
- ・本人は相談機関に出向けないので家の方へカウンセラーとか心理士の方が出向いてくれるような支援をお願いしたい。
- ・同じ状況で苦しんでいる人達と，もう少し親密になり，話をしたい。高齢の当事者の為に，高齢のセラピストが，家を訪問に，当人に直接会ってもらえるとありがたい。
- ・本人にあってくれる訪問者がほしい
- ・家庭訪問の回数が選択できたらと思います。又，ひきこもっている子は，パソコンを情報手段として使っていることが多く，訪問してくださるスタッフの方が，パソコンに詳しい方が親しくなり易い感じがします。
- ・家に来てくれる支援者に訪問して欲しい。
- ・出てこれない子供や医療機関にも行かない子供達の訪問サポート（心理士や引きこもり経験者）があったら良い。
- ・第三者訪問等による改善ができないものか。
- ・訪問サポートを各地域に。

⑥専門的支援

- ・長期引きこもり状態であると，非定形うつに固定して来ていると思います。パーソナリティ障害が進んでいると思いますし，薬だけでは，改善は望めない気が致します。
- ・誰でも明るく出入り出来るような心理カウンセラーの様なものがあるといいと思ひ

ます。

- ・スキル教育の無償支援とスキル教育の幅広いカリキュラムの充実。
- ・第3者による支援が出来ないものか思案しているが、いまだ医療機関、病院への診察に連れて行ってない。本人が強くこぼんでなかなか病院への診察への理解してくれない。強行突破しかないだろうか。
- ・今現在、学習会、カウンセリングを行っています。これからも続けて行きたいと思います。皆さんからプラスのエネルギーをたくさん頂きたいと思います。
- ・引きこもり状態の為、歯や目等、具合が悪くても行けない。長期なので、足も弱り、くつが合わなくなり、身体も心配。
- ・医療よりも、カウンセリング、認知行動療法によって。
- ・本人のためのカウンセリングの支援など。
- ・専門家の育成を国、関係機関へ働きかけること。
- ・何よりも良い精神科医やカウンセラーにめぐりあいたい。（わずかしかない。遠方にしかない。）
- ・引きこもりの家族の専門的な知識を持った者（医者、保健師、看護師）等の家庭訪問。そのための専門家の教育、養成及びそのための経済的支援。
- ・本人が仲間の中へ行こうという気がないようなので、外側から働きかけをどの様にしていっていいのか。もっと身近に専門的に相談する人が少ないと思う。
- ・デイケアサービシ的な場の充実。カウンセリング機関の充実。

⑦相談機関の充実

- ・親子の信頼関係が良くなるといいが・・・そのために相談機関が近くにあると便利だと思う。
- ・社会的（公的）に、相談できる機関がほしい。
- ・各種相談機関があるけれど適切な解答が得にくい。
- ・相談機関の利用については、限定的な為、満足する内容ではない。特に引きこもりの子供達は夜間行動するパターンの為、民間機関でないと土日や夜間対応は困難と思われる。一番安全な時間帯に行動出来る機関が身近に欲しいと思います。
- ・気軽に相談出来る機関が多くなって欲しい。
- ・子供が自由に相談出来る専門機関がほしかったですね（病院以外に）。泊まり込みで（1か月位）家にいると夜・昼逆転です。
- ・学力をつけたいと思った時、いつでも支援してくれる施設がほしい。
- ・フルタイムで働いてる者にとって公的相談機関では時間帯があわず、1度は行けても継続的に参加するのは困難である。講演会等も13~17時頃開催（月~金）しかなく参加できない。
- ・気軽に話せ相談に乗ってもらえるところ。お金の事を気にせずに相談出来ること。他方面での多様な取組の仕事場又は支援の場所。
- ・悩みに対してアドバイスが受けられる所が身近にあると良い。
- ・本人について悩みや健康状態のアンケートなどをしていただける為の（郵送とか）どの機関が適当（切）かはわからないけど。

⑧公的支援

- ・民間の相談機関の料金が高いので公共で同じような事をしてほしいと思います。
- ・行政の機構がもっと引きこもりをよく理解する事が必要である。
- ・社会情勢の安定を望む。今の30代はバブルの長期化に振りまわられて、社会から見捨てられてしまったと思っています。一生懸命に頑張ってきた本人達の努力を社会が

理解し受け入れて下さるようお願いしたいです。心が傷つきその為に本人も又家族も苦しんでいる事、長いトンネルの中に入りその先の光が見えない現実に家族は行き場に困っています。このまま社会に置きざりにされてしまう子を思うと不安です。今の時代の現状（うつ病）がこれ程多くいると考えれば、やはり社会の流れが狂い始めているのをわかってほしい。若い人達に希望がもてるように、その為の国の支援で回復に向けての良い方法を願う。

- ・引きこもり状態の家庭はまるでガチャガチャの固いカプセルにとじこもってしまったように、まわりとの接点がなくなり、どうしてよいかわからなくなっています。積極的に広報活動し、困っている人達の耳に届くようにしていただきたい。また、公的援助をしていただき、カウンセリングの費用などがもう少し安くなれば、もっと、気軽に、初期段階で相談が受けられるようになるのではないのでしょうか。
- ・市、県等身近に相談出来る精神科医を配属する様希望する。カウンセラーも同様に希望。
- ・引きこもりに対する世の中の正しい理解がほしい。その上で、行政からの支援がほしい。
- ・公共機関によるアウトリーチ。
- ・行政の理解支援を切に願います。（積極的な予算を切に願います。）
- ・「引きこもりによる生活機能障害認定」を行い、生活支援体制を清算してほしい。それまでの間は例として「統合失調症」と認めたくないのに、「統合失調症」と認定され、支援を受けるしか方法がない。ツライ事です。
- ・公的支援による親の会の事務所の運営。

⑨社会参加支援

- ・引きこもり当人同志が共同生活を送りその中で自立に向けた取り組みが出来るような場を公的支援機関とに設立して欲しい。
- ・人との関わりがもてたり社会にできるためのきっかけやそれを援助してもらえる場所や人。
- ・本人の自立のための寮を備えた良心的な施設等を、公的な機関で一日も早く実現できる事を望みます。
- ・親は子供からの自立。子供は自分自身の自立。
- ・引きこもりの人もインターネットをよく用いる。人に会わなくてもネット上掲示板に引きこもりの人に働きかけ、勇気と希望をもたせる内容のメッセージを載せてはどうでしょうか。
- ・本人の自活に向けた、数多くの手法及び考えられる対策等について具体的な支援等及現在実行されている例、考えられて、これから具体化されそうなもの等について教えて欲しい。
- ・現在、グループホームに入所中であるが将来のことを考えると娘のことが不安である。本人が自立できるような支援がひつよう。
- ・すぐに就労ではなく、何でもいいから社会参加の幅広い選択肢が選べるような取り組みを望みます。ボランティア、趣味、スポーツ、音楽等。

⑩人間関係

- ・本人と会話の出来る友人が出来ること。
- ・本人が動いてみたいと思うことがらからの誘い。
- ・本人としては、友達がほしい。
- ・当事者を何らかの形で他の人（支援者又は相談者）との連がりを持たせたいと思ひ

働きかけをするも仲々、本人が動く気配がみえない。

- ・引きこもり状態からは何とか脱し、現在不安定ながら就労しています。ただ、本人には同年代の友人がなく、本人の生活の質を考えると、もう少し、仲間との語りや、行動があると、良いのに・・・と、親としては心を痛めています。
- ・安心して居れるところ（家以外に）、少なくともいいので、話のできる人、友人がなんとかできるように思っている。

⑩社会制度

- ・引きこもり本人が「相談」etcを受けやすく出来る仕組み作り。
- ・親がいなくなっても一人で社会参加ができ社会生活ができるしくみ。
- ・引きこもり状態でも人間らしい生活ができるシステム等研究し、研究してほしい。
- ・医療、経済、政治的な保障支援を具体的に広めていく。
- ・親の世代も年金暮らしが多くなるにつれて特に別居している場合の送金は負担になる。うつ病と診断された場合及び、働けない状態にあるのに、障害年金が受けられないのは、ふに落ちないと感じている。
- ・引きこもりの人が活動（就職、生活全般）しやすいような社会づくり。引きこもりの人を受け入れ、理解促進するための啓発活動。学校や社会からいじめや差別をなくすこと。子供の個性を尊重し、教師の意思にそぐわない場合でも親や他の関係機関と協議しながら、愛情をもって接するよう教師の意識改革を進める。管理でなく、長所を伸ばす教育を！

2. 全国引きこもりKHJ親の会に望む活動

<本人調査回答者の自由記述>

①居場所

- ・何か人が迷い、悩みがあった場合にすぐに対応してその場所を（スペース）を作って欲しい(以前そのような事が在って対応していた)。
- ・話や悩みを聞いてくれる人・場所を多く作ってほしいです。
- ・フリースペースの活動の日を増やして欲しい。
- ・公的な居場所の設置の要望。
- ・僕自身は、親の会の居場所の活動のおかげで外に出られていると思っています。今まで家から全く、あるいはほとんど外に出られない時期が何度かありますが、そういった状態から抜け出したい時に「居場所」が必要な場合もありました。そうでない場合でも「居場所」があることで安心して過ごせましたし、今でもそうです。
- ・親だけでなく当事者どうしの集まりもあっていいと思う。
- ・スポーツの出来ること。

②広報

- ・サイトで拝見させて頂くことがあります。その活動はとても充実していると思います。今現在は、同様の活動をされている組織に参加させて頂いておりますが、本当に有難く思っています。自分のことを振り返って考えますと、この様な活動に参加することだったり、話をうかがいに最初に扉を叩くことが、大きなハードルだったりしました。私の場合は、その第一歩を踏み出せたことで、社会復帰する為の要素の半分くらいを持てた気がしています。なので親の会様の活動は「いつでもそこにあって扉は開かれている」と云う状態をひきこもっている人達にアピールしハードルを越える勇気を持たせてあげてください。
- ・引きこもりや、それにとまなう精神病に就いての理解をもっと広めてほしい。

- ・親の理解の向上
- ・引きこもりへの理解，支援

③就労

- ・中間施設の充実 就労場所を作る
- ・就労体験がしたい，就職につながるような活動や企画を立ててほしい。

④会への要望

- ・会員の方と接して気づくことは，ひきこもってしまった人たちのだれもが基本的に優しく純粋で傷つきやすいのだなあと感じました。引きこもりという病名はないので，医療機関でも，引きこもりについての理解がないため，引きこもり支援団体の存在は不可決だと思います。家族ではない第3者の助けが大きな力となると思います。
- ・「働かざるもの，食うべからず」という日本の習慣があるように，引きこもりに対する差別は消えません。母私はKHJだけでなく他の引きこもりをサポートする活動を応援します。
- ・今後も継続して，孤立する人が減る様，お願いしたいです。
- ・引きこもり支援の継続
- ・当事者（引きこもり本人）をケアする体制をもっと充実させて欲しいと願います。
- ・現在引きこもり状態または経験者が社会参加を果たすまでのサポート。
- ・医療サービスを利用し易く。精神科医の往診等。
- ・会に参加しているご家族各自に自己選択の意思で12ステップグループに参加して，各人が，無意識に持っている機能不全の問題の回復，成長，進歩の体験を，実践して頂くこと。
- ・引きこもり他，問題が現れている本人の家族の方，自身の機能不全の問題を，治療，回復，成長，進歩できる医療施設（デイ・ナイトケア），資料の利用，実践を希望します。

<家族調査回答者の自由記述>

①広報

- ・不登校から引きこもりになる場合も多いので，学校，教師，教育委員会に対して”いじめ防止”（教師，子供によるいじめ）の働きかけをしてほしい。不登校や引きこもりになる青少年に対する理解，接し方を教師等に働きかけてほしい。不登校や引きこもりに対する偏見や差別をなくし，引きこもりの若者も社会参加しやすくなるよう，活動してほしい。
- ・情報について，広く，放送及び新聞等で社会に知らせてほしい。
- ・親の会の活動と我が子の対応は別と考えている親御さんが多く，なかなか難しい。我が子が回復してくると，親の会から離れていく宿命を背負っているのが，親の会，また反対に回復が目に見えないと，活動に対して不満を言われると残念に思う。生活機能障害を受け入れようとしている人は，長期の方に多く，障害と名が付くだけでも拒否反応を示す親御さんがいるので，難しい。どこでも言えるが，担当者によっては引きこもりについての理解が，見受けられないので各県で差がつく。
- ・メディアに取り上げられる様な活動をして欲しい。
- ・引きこもりについての社会的な理解を正しく持ってもらうための活動。
- ・全国的なネットワークを活用してのアンケートとか，行事とかを行ってほしい。
- ・全国の各地区の親の会において，「親の会」の運営している居場所の活動内容，現

状、運営方法などを本部でまとめていただき開示をお願いしたい。

- ・情報の共有化。
- ・引きこもりが長期化した場合、家族では支えきれません。家族だと感情も入りますし、ケンカなどもひどくて、いつ新聞ざたになるか、決して人事ではありません。支援してくれる施設などあれば教えていただきたい。
- ・引きこもりから脱する（この表現は不適切かもしれない）のにどういう働きかけが有効なのか。そういった事例集のようなものがあるのでしょうか。あれば紹介して頂きたいのですか・・・
- ・習慣的引きこもりに対してもう少し取り上げていただきたい。KHJがメインになっているように思います。
- ・KHJ親の会の成果を見えるような形にできないか。即ち、KHJ親の会を退会された方のその後の状況把握ができないものか。
- ・引きこもりの分類、統計表のようなものが欲しい。
- ・引きこもりの人に対する理解ある学校や職場の紹介。

②感謝

- ・多くの皆様とのかかわりを得て、会社勤めをしております。皆様に感謝です！！
- ・お世話になっております。今後ともよろしく願います。
- ・親の会に参加して、気持ちが楽になり、帰宅することで楽になった。
- ・5年間くらいは、学習したり、講演をきいたり、カウンセラーを受けたりと、よかったか。
- ・いっしょうけんめいに行っていると思います
- ・親の会の方々にはいつも終わりなき戦いに一生懸命頑張って頂き感謝しております。本来なら国が積極的に取りくまなければいけない事を親の会の方々が自分の子供の将来を心配し又、親の苦しい気持ちを和らげて下さり本当に心強いです。全国的にこれ程の多くの人がいることが異常だと感じなければいけないと思います。この状態を少しでも減少しこの世に生れて来て良かったと感じてもらえるよう私達親も頑張ってゆけるようにしたいと思っております。
- ・学習会に参加し、「無条件の肯定的関心」という考え方をくり返し教えていただいたおかげで、息子の人生はがらりと好転し、私自身もとても生きやすくなりました。仮に参加者が減少する時期があっても継続的に会を運営していただきたい。
- ・毎月定期的に会合・講習をしていただいているので、ありがたいです。
- ・今までの活動で充分です。
- ・実体験の人達が勇気を出して、話して下さった事に、とても感謝しています。とても勇気があることだったと思います。又、今日は、いろいろな話がきけて、良かったです。
- ・とてもありがたく思っています。つらい気持ちを打ちあけられ、またああ親の思いは同じなんだと心強くまたまた前を向いていけます。
- ・非常に良く活動されている。

③行政への養成

- ・親、亡き後の事が心配です。どんな子供でも社会参加出来る世の中になって欲しいです。
- ・国へ厚生労働省と文部科学省が手を取り合って引きこもり、不登校の支援を要望してください。子ども若者育成支援推進法ができたので財政面の援助を要望します。
- ・居場所を多く作ってほしいが、経済的な支援が国自治体から必要になってくるの

で、ボランティア活動も無償ではなく有償になる様、支援を要請してほしい。

- ・政府交代により若者支援の政策が廃止されていることは、次代を背負う若者を継続的にサポートすることの意識が消えたことになる。貴重な若者のエネルギーを最大限に生かせるよう親の会として強く国に良い施策を提言し続けて欲しい、引きこもり地域支援センターの各県必置を求めたいと思う。
- ・国や行政との接渉により、適切な支援を得る。
- ・引きこもり支援のための施策を政府に働きかけてもらいたい。
- ・地域ごとの支援ネットワークを広げる。
- ・国に働きかけ：統合失調症は手厚いが、引きこもりと症状はリンクしている所があるので、その線引きを病気と認定するよう国に働きかけたい。
- ・親も高齢化し少ない年金で子供を扶養するのも経済的にも苦しい状況だ。現在扶養控除廃止の動きも有り大変だ。又親無き後どうして生きていけるか心配です。障害者並に法的支援対策を政府に強力に働きかけてほしい。
- ・全国に多くの会員がいるのだから、将来的に高齢化した当事者達の福祉（生活保障）の実現を目ざして、政府と交渉してもらいたい。
- ・国、地方自治体の理解と支援。
- ・行政に働きかけて引きこもりの人たちへの支援活動を強化してほしい。
- ・引きこもりの実態をもっと行政の方へ反映して欲しい。

④会の在り方

- ・役員だけでなく、全員一人一人が自分の事として取り組む事が大切。
- ・自分もなかなか参加できる事しかしないが、1人でも多く参加し活気ある会に出来る様にしたいですね。
- ・社会のシステム上のことではなく、人間の内実に迫る多様な考え方を包含する活動を展開していくべきです。
- ・最近少しずつ会の雰囲気が変わって来た様な気がする。参加者も四、五年前と違って来たけど固苦しい空気から女性が司会に変わったり情報が多くなったり次回も来なくてはという気にさせる。親の会は、運営＋アルファーがあることを望みます。
- ・自立サポート施設の拡充（各地に）。
- ・親が気がるに相談できる場所がほしいですね。
- ・困った時、悩んだ時にすぐ相談できる場があると助かります。
- ・引きこもり当事にとって一日一日は大変辛いようです。親はいろいろな工夫を考えて、一日でも早く現状を変化させることを心がけなければいけないと思います。そのためにも引きこもり者が集まれる、仕事につながる中間施設を設置することを強く望みます。「母親の会」「父親の会」の日も、行事の中にぜひ入れていただきたいと思います。
- ・親同士が話し合える場をもっと作ってほしい。相談（診察）するのに自宅から病院までタクシーを使用している。かなりの金額かかってしまうので、もうちょっと身近なところに相談機関があればと感じている。
- ・アスペルガーと一応診断されたので、引きこもりを対象としたこの会が当方にとって適切であるか、いつも自問自答している。
- ・KHJという文字に抵抗を感じる。人それぞれ事情が違うということ、中心においてほしい

⑤居場所

- ・子供達でも出席出来るようになってほしい

- ・当事者の健康な時，すぐ行ける居場所がほしいです。（又本人の話を聞いてくれる人がいれば，一番良いです。）辛い時に話しを聞いてくれる人がいてほしいです。
- ・引きこもりの人達が常に自由に集まれる居場所が，出来ると良いと思う。
- ・若者が集まる機会が増えるのは良い事だと思います。
- ・若者の居場所作りをお願いしたい。なるべく定期的に毎週土，日とか，毎月〇日と〇日とか。
- ・居場所を充実したものにしてほしい。
- ・居場所の開設に関する支援のいろいろ。
- ・居場所の設置。
- ・気軽に，いつでも相談できる場所を設けて欲しい。近くに居場所。

⑥家族支援

- ・「同じ立場の親同士話をして，気持ちを楽にしませんか。」と書かれたパンフレットを見て行きました。でも行政のことが多く，今，どうしたら帰ることが多いです。行政は絶対，大事な事だと思いますが，今の気持ちを楽にしたいです。
- ・引きこもりを持つ親の心をささえてくれるような企画をいろいろ考えてほしい。
- ・今親が何を望んでいるかを細かくキャッチし，聞く場面を持ってほしい。言葉や理想論だけでは1歩も出られない様に思う。
- ・各引きこもり本人及び家族の相談役，又問題解決の方法等を広く紹介や支援。
- ・個別事例の相談にのっていただけると有難い。
- ・親が病んでいることを自覚すること，子供だけでなく親にも大いに問題がある。
- ・本人への対応についての勉強会。

⑦子どもへの働きかけ

- ・当事者から悩みを言うことはありません。自分から電話することもこれからもないと思うので，出れば電話をしていただけるとありがたい。
- ・子供への直接的な働きかけ。
- ・通信手紙を送りつけて下さい。本人にも（本人は手紙をよまないけれど）関心が少しあるようです。
- ・引きこもりの本人に対しての年齢層に応じた，又期間（引きこもり）始めた部分での援助方法（姿勢）を教えて頂けると，良い。「NPO法人」がたくさんあるが，どこが，どう良いのか？分からない。（たぶん，1人1人での対応方法については違うので仕方がないかも知れないが・・・）
- ・親子の会話の中でお互いの考えや感情についてぶつかったときにおいて，もっと具体的な表現を使って説明してほしい。もっと言葉のやりとりについての表現方法がほしい。
- ・引きこもりが長期にわたり，社会参加が極めて困難視される。引きこもり当事者（家族を含む）を対象とした具体的な支援策。
- ・本人は外に出なくてもいいと思っているのかな。と思えることがあり，生き方の問題とはいわれるがこういう方法もあるとの話し聞けたらと思う時がある。
- ・長期化した引きこもりの対応。老後あるいはその後の本人自立のサポートはどのくらい迄したら良いか

⑧専門的支援

- ・引きこもり外来や入院が出来る場所が全国にほしい。精神科も薬ではなく，サポートしてほしい。そして歯，内科，目医者等，その中であつたらと思います。

- ・福祉面，医学面や社会参加のしやすい情報，援助を充実して欲しい．
- ・専門家への直接的な相談の機会があるとよい．
- ・カウンセラーの無償支援とカウンセラーのレベル向上．本人の心理理解を助けるアドバイザーの充実．
- ・訪問サポート士の養成と活用．
- ・親の会を支える人の支援，専門家の方の支援がほしい．親の会のメンバーに負担がかかりすぎている．
- ・専門心理士やカウンセラーの巡回＝無償にて．

⑨体験談

- ・他人の親と，他人の子との交流．（雑談や意見）の交換・・・他人の親や子の思い考えを知る．
- ・ひきこもっている本人からのメッセージが聞きたい！
- ・是非は問わず，経験談の情報が欲しい．
- ・引きこもり青年が元気になって就労といった形で社会参加している成功事例とその過程が知りたい．
- ・体験発表をする．
- ・引きこもりから社会参加への過程，きっかけなどの紹介．

⑩経済的支援

- ・引きこもり団体に支援金が出るようにしてほしい．
- ・単県，親の会に対する適切な活動が展開されるべき助成金の交付．各家庭の状況から経済的支援を考える必要はないか．
- ・訪問サポートへの経済的支援．個別相談への経済的支援．
- ・学習会，講演会などの活動について助成して頂けると有難いです．
- ・カウンセリング費用を安く．障害者なみの支援を．
- ・引きこもり状態だった人が（経験者）引きこもりの人のためにする活動に金銭的保障ができるようなシステムができないでしょうか．

⑪交流

- ・KHJの親の会に入っていない会が地域に数々の会がありますが，まとまっていける様になれば大きな力となるのではないのでしょうか？
- ・各親の会の会報の交流会の設置．親の会の交流会（近隣の県）．親の会の交流会（全国的なもの）．
- ・他の親の会の活動に参考になる情報をもっと交流がほしい．
- ・経験者どおしのネットワークみたいなものがないのでしょうか．又そういうものがあれば情報を提供して欲しい．引きこもりの人に支援するのはやはり経験者がいちばん適していると思います．

⑫学習会

- ・今まで同様勉強会等，奥を深めて下さるとうれしいです．
- ・勉強会のようなサークル活動ができないか？
- ・学習会の実施

⑬訪問支援

- ・訪問サポートの充実．

- 家に来ていただき話しをしたり相談にのってもらえるようなこと但し、本人が望まなければだめですが。
- 訪問システムがたくさんできるといいのではないかと思います。

第四部 全体のまとめ

1. 引きこもり本人の年齢，初発年齢，及び親の年齢

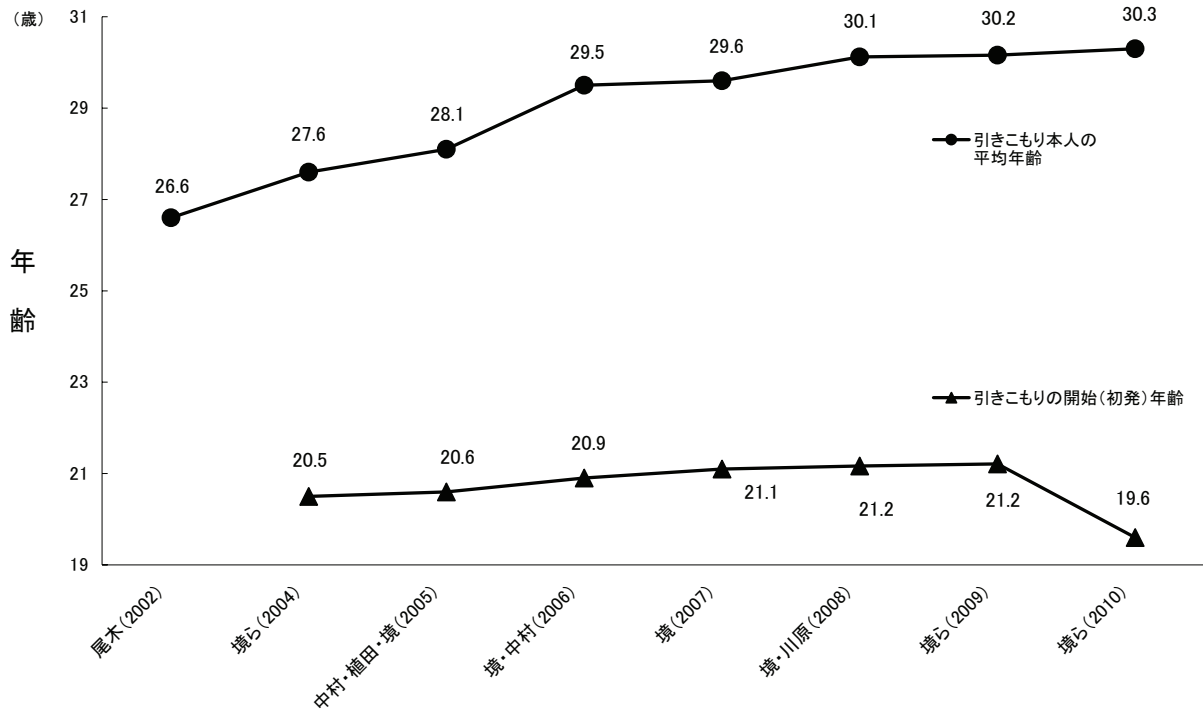


図4-1 家族調査における引きこもり本人の平均年齢と引きこもり開始(初発)年齢

引きこもり本人の平均年齢は、本年度30.3歳となり昨年度の30.2歳とほぼ同程度となりました。過去5年間の引きこもり本人の年齢は30歳前後で推移しているといえます。こうした現象の要因として、30歳を超えると親の会に参加しなくなることが考えられます。しかし、それが引きこもり状態から回復したためなのかどうかはわからないため追跡調査が必要だといえます。

従来は、引きこもり本人の年齢から引きこもり期間を引いた値を開始年齢としていましたが、本年度の調査では、引きこもりの初発年齢を調査しました。その結果、引きこもりの初発年齢は、従来の平均年齢よりも低いことがわかりました。また、引きこもりの経験回数についても調査を行ったところ、複数回引きこもりを経験している人が家族調査で約20%、本人調査で約40%に上りました。こうしたことから、より早期の予防と再発防止について今後検討していく必要があると考えられます。

家族回答者の内、引きこもり本人の親に当たる方の年齢は平均60歳を越えています。60歳を超えている割合は、父親で68.6%、母親で55.8%に上ります。境・中村(2006)の調査で、両親の年齢の上昇は家計収入の減少につながっていることが示されています。こうした結果から、引きこもり本人を抱える家庭の経済的状況はますます苦しい状況になっているのではないかと推測されます。

2. 引きこもりと生活の質

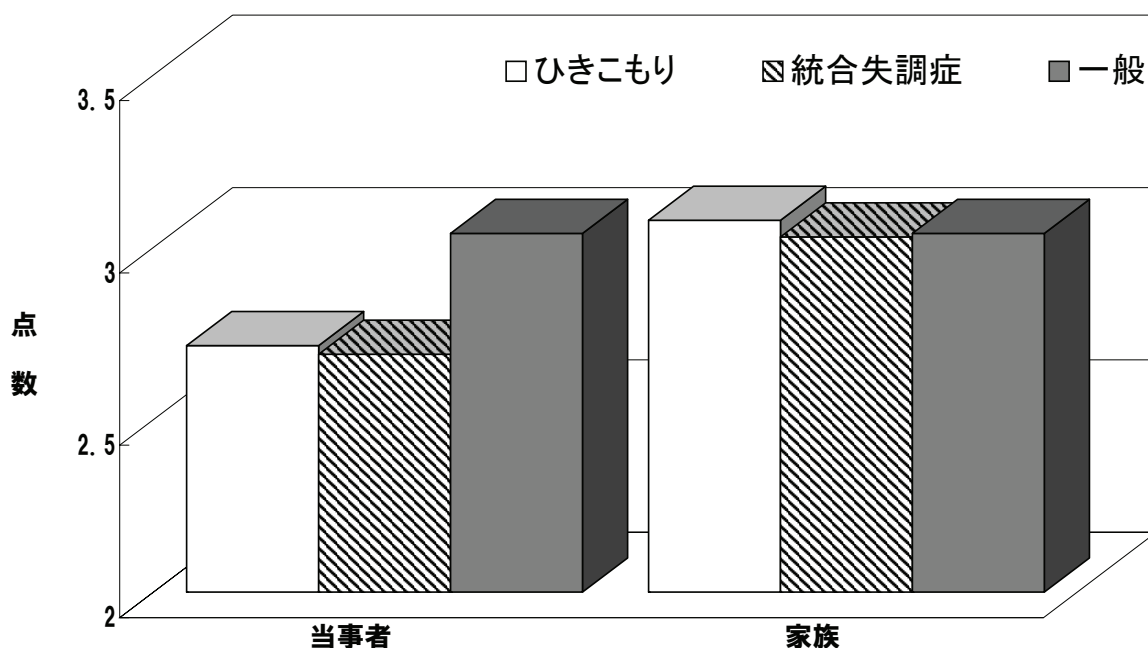


図4-2 引きこもり、統合失調症、及び一般における当事者と家族の生活の質

図4-2には、本調査のWHO QOL 26の全項目の平均得点と田崎・中根（2007）に示されている、統合失調症患者のとその家族、及び一般の方のWHO QOL 26の平均得点が示されています。図4-2から、引きこもり経験者の生活の質は、統合失調症患者と同程度に低くなっていることがわかります。一方で、家族の生活の質は、統合失調症患者の家族や一般の方と同程度に高いことがわかります。

このことから、引きこもり本人の生活の質を高める支援が必要であるといえます。また従来の研究から、家族の負担は大きいことが実証されていますが、生活の質の観点から見ると家族の生活の質は一般の方と同程度に保たれているといえるかもしれません。

3. 本人調査回答者の特徴

本年度の調査において、家族調査における引きこもり本人と本人調査回答者との間に違いが認められる点があります。こうした違いは、本人調査回答者は引きこもりからの回復過程にある方であるためと考えられます。ここでは、家族調査との比較から本人調査回答者の特徴を示し、引きこもりからの回復段階にある方についての考察を加えたいと思います。本人調査回答者の特徴として以下のような点が上げられます。

①引きこもり期間が短い

- ②引きこもりを複数回経験している人が多い
- ③就労経験のある人が多い
- ④携帯の利用率が高く，パソコンの利用率が低い
- ⑤相談機関を利用している人が多い

これらのことから，引きこもりを複数回経験していながらも，引きこもりの期間は短く就労経験があり，現在相談機関を利用していると言う点が，本人調査回答者の特徴であるといえます．携帯電話の利用率が高いことは，引きこもりからの回復過程にあり他者との交流を持つようになった結果であると考えられます．

引用・参考文献

- Hayes, S. C., Wilson, K. G., & Strosahl, K. 1996 Experiential avoidance and behavioral disorders: A functional dimensional approach to diagnosis and treatment. *Journal of Consulting and Clinical Psychology*, **64**, 1152-1168.
- 伊藤直樹 2004 大学ホームページ上における学生相談機関の情報発信に関する研究 学生相談研究, **25**, 116-126.
- 岩瀬信夫・池田貴子 2008 Duke Social Support Index日本語版 (DSSI-J)の開発 愛知県立看護大学紀要, **14**, 19-27.
- 木下奈緒子・山本哲也・嶋田洋徳 2008 日本語版Acceptance and Action Questionnaire-II作成の試み 日本健康心理学会第21会大会発表論文集, 46.
- 境 泉洋 2005 引きこもり状態の改善に関わる家族の認知行動療法的要因と家族への集団認知行動療法の効果 2004年度早稲田大学人間科学研究科博士 (人間科学) 学位論文
- 境 泉洋・植田健太・中村 光・嶋田洋徳・坂野雄二・全国引きこもりKHJ親の会 (家族連合会) 2004 「引きこもり」の実態に関する調査報告書: 全国引きこもりKHJ親の会における実態 早稲田大学大学院人間科学研究科坂野研究室.
- 境 泉洋・植田健太・中村 光・嶋田洋徳・金沢吉展・坂野雄二・NPO法人全国引きこもりKHJ親の会 (家族連合会) 2005 「引きこもり」の実態に関する調査報告書②: 全国引きこもりKHJ親の会における実態 志學館大学人間関係学部境研究室.
- 境 泉洋・中村 光 2006 引きこもり家族実態アンケート調査・調査結果データ分析とまとめ 引きこもり家族調査委員会 引きこもり家族の実態に関する調査報告書, P7~P45.
- 境 泉洋・中垣内正和・NPO法人全国引きこもりKHJ親の会 2007 「引きこもり」の実態に関する調査報告書④: 全国引きこもりKHJ親の会における実態 志學館大学人間関係学部境研究室.
- 境 泉洋・川原一紗・NPO法人全国引きこもりKHJ親の会 2008 「引きこもり」の実態に関する調査報告書⑤: 全国引きこもりKHJ親の会における実態 徳島大学総合科学部境研究室.
- 境 泉洋・川原一紗・木下龍三・久保祥子・若松清江・NPO法人全国引きこもりKHJ親の会 2009 「引きこもり」の実態に関する調査報告書⑥: 全国引きこもりKHJ親の会における実態 徳島大学総合科学部境研究室.
- 坂野雄二 (編) 2000 臨床心理学キーワード 有斐閣双書
- Smith, J. E. & Meyers, R. J. 2004 Motivating substance abuse to enter treatment. New York: The Guilford press.
- 田崎美弥子・中根允文 2007 WHO QOL 26手引改訂版 金子書房

おわりに

この一年の引きこもりを巡る現状には大きな変化がありました。ひきこもり地域支援センターの設置開始や子ども若者育成支援推進法の施行は大きな出来事でした。さらに、2007年度から3年間で行われた厚生労働科学研究費補助金こころの健康科学研究事業「思春期のひきこもりをもたらす精神科疾患の実態把握と精神医学的治療・援助システムの構築に関する研究」の成果がまとめられ2003年に出されて以来の新しいひきこもり対応ガイドラインが作成されます。こうした動きに呼応した活動が親の会に求められています。

行政の積極的関与があるとどうしても他力本願になりがちですが、引きこもり状態からの回復は自力本願に他なりません。特に、経済的支援は昨今の経済状況を鑑みても、他力本願の姿勢では社会の理解を得られないでしょう。今後、引きこもり状態にある方と家族が支援を受けて行くには、社会に理解を得られる支援を求める必要があります。

公的な支援を社会の理解を得て受けられるか否かの一つの基準は、精神科疾患を有しているために社会生活が困難になっているか否かという点だと考えられます。新しいひきこもり対応ガイドラインの骨子は、引きこもり状態にある方が持つ精神科疾患に応じた適切な支援を行うことです。そうした意味で、医師の診察を受けることは困難な場合でも、引きこもり状態にある方が精神科疾患を持っているか否かを判断する努力をする必要があります。こうした判断をするために、引きこもり状態にある方に関わる家族や関係者は引きこもり状態と関連があるとされている、統合失調症、発達障害、不安障害、気分障害、人格障害といった精神科疾患についての知識を身につけていく必要があります。こうした課題に向き合うのは大きな負担を伴うものですが、引きこもり問題に関わる人が向き合わなければいけない重要な課題と考えられます。

末筆になりましたが、本調査が当事者とその家族、そして関係する全ての方にとって引きこもりへの理解を深める一助になればと願っております。

平成22年3月吉日

境 泉 洋

付 録

付録 1 調査用紙（家族用）

調査に含まれたものうち，制作者に許可を得た上で使用した尺度，及び現在制作中の尺度は記載しておりません．

ご家族用

アンケートの説明

本調査は、「ひきこもりとQOL（Quality of Life：生活の質）を明らかにすること」を目的としています。本調査の結果は、今後のひきこもり問題への対応を発展させる資料として活用させていただきます。本調査の趣旨をご理解いただき是非ともご協力をお願い致します。

調査結果の解析において、個人名、個人の回答内容などは一切公表せず、個人情報保護には最大限配慮致します。

本調査の結果は調査実施担当者のホームページにて公開し、その成果を広く普及させるよう努力して参ります。

本調査の趣旨をご理解の上、何卒ご協力の程をよろしくお願い申し上げます。

全国引きこもりKHJ親の会（家族会連合会）

この用紙は、切り離して頂いてもかまいません。

次のページ以降の用紙のみ回収いたします。

本調査について何かございましたら、下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

調査実施担当者連絡先

〒770-8502 徳島市南常三島町1-1

徳島大学大学院リソ・アツ・アト・サイエンス研究部 境 泉洋研究室

Tel&Fax 088-656-7191(直通) E-mail : motohiro@ias.tokushima-u.ac.jp

ホームページ : <http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/motohiro/>

ご家族用

アンケート表紙

調査にご回答頂く上でのご注意いただきたい点

- ① 本調査への協力は強制ではありません。ご自身の判断でご協力ください。
- ② 本調査では、ひきこもり状態の経験者を「ご本人」と表記し、そのご家族を「ご家族」と表記しております。
- ③ この質問紙には、正しい答えや間違った答えというのではありませんので、他の方とは相談せずに、お一人でご回答ください。

この用紙以降を回収いたします。

A. 以下の質問について、該当するところに○をつけてください。

1. ご本人は、現在、社会参加（学校・職場に行く）などをしておらず、自宅以外での活動が失われた状態（以下「ひきこもり状態」と表記する）ですか？ → a. はい b. いいえ

2. ご本人は過去に「ひきこもり状態」を経験されたことがありますか？
→ a. はい b. いいえ

1, 2. の質問に両方とも「b. いいえ」と答えた方は、ここでアンケートは終了です。
ご協力いただき、誠にありがとうございました。

3. ひきこもり状態にある人が、ご家族に2人以上いらっしゃる方は次の問にお答えください。

ひきこもり状態にあるご家族の人数をお答えください。 → () 人

2人以上いると回答された方は、ひきこもり状態を経験された方一人につき、一部の質問紙に、お一人でご回答くださいますようお願いいたします。

B. 以下の質問について、該当するところに○をつけるか、具体的に記入してください。

1. あなたが住んでいる場所をお答えください。 → _____ 都・道・府・県

2. ご本人からみての、あなたの立場をお答え下さい。
a. 母親 b. 父親 c. その他（具体的に _____）

3. あなたの年齢をお答え下さい。 → (_____ 歳)

4. あなたが入会しているKHJ親の会支部会についてお答えください。
a. 会の名前 (_____) b. 入会していない

5. ご本人とご家族の同・別居をお答え下さい。
a. 同居 b. 別居（別居してから _____ 年 _____ 力月）

6. ご本人の性別をお答え下さい。 → a. 男性 b. 女性

7. ご本人の年齢をお答え下さい。 → (_____ 歳)

8. ご本人がひきこもり状態を経験した期間をお答えください。

●例を参考にして、ご本人が、ひきこもり状態を経験した期間を黒く塗りつぶし、右の欄に各年代でひきこもり状態を経験した期間の合計をご記入ください。

例：18 歳半～24 歳になるまでの間と、25 歳半から 27 歳になるまでの間ひきこもった場合

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	各年代における合計期間
10代											… 1 年 6 カ月
20代											… 5 年 6 カ月

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	各年代における合計期間
10代											… ____ 年 ____ ケ月
20代											… ____ 年 ____ ケ月
30代											… ____ 年 ____ ケ月
40代											… ____ 年 ____ ケ月
50代											… ____ 年 ____ ケ月

9. 現在のご本人のひきこもり状態の程度について、最も当てはまる いずれか1つ に○を付けて下さい。

- a. 友人とのつきあい・地域活動には参加している
- b. 他者との関わりはないが、外出はしている
- c. 外出はできないが、家庭内では自由に行動している
- d. 外出もできず、家庭内でも避けている場所がある
- e. 自室に閉じこもっている

10. ご本人は過去に不登校を経験したことがありますか？

不登校とは、「何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因・背景により、登校しない、あるいはしたくともできない状況で、病気や経済的な理由によるものを除いて、年間 30 日以上欠席した」ことをいいます。 → a. はい b. いいえ

11. ご本人はこれまでに働いた経験がありますか？ → a. はい b. いいえ

12. ご本人の家でのパソコン、携帯電話、ゲーム機の使用についてお聞きします。

①ご本人は 家で パソコン・携帯電話・ゲーム機を使用しているようですか？

パソコン⇒ はい・いいえ 携帯電話⇒ はい・いいえ ゲーム機⇒ はい・いいえ

家でパソコン、携帯電話、ゲーム機のいずれも使用していない場合は「13」にお進みください。

②平均すると1週間の何日くらい、また、一日平均何時間くらい使用しているようですか？

パソコン ⇒ 1 週間のうち平均約 日, 一日で平均約 時間

携帯電話 ⇒ 1 週間のうち平均約 日, 一日で平均約 時間

ゲーム機 ⇒ 1 週間のうち平均約 日, 一日で平均約 時間

③どのような目的でパソコン，携帯電話，ゲーム機を使用しているようですか？当てはまるものにいくつでも○をつけてください。

a.電子メール	b.チャット	c.掲示板やプロフィールに書き込みをする
e.サイトを見る	d. ゲーム	e.その他（_____）

13. ご本人の相談機関の利用状況について当てはまる（1）～（5）の いずれか1つ に○をして下さい。わかる範囲でお答え下さい。

- (1) ご本人が相談機関の利用についてどう考えているかわからない
- (2) 相談機関の利用について、全く関心がない
- (3) 相談機関の利用について関心はあるけれども、まだ利用したことはない
- (4) 現在は継続していないが相談機関を利用したことがある。
- (5) 相談機関を継続的に利用している

（相談機関を利用したことがある場合は、以下に具体的にお答え下さい）

- ・具体的な利用機関（_____）
- ・利用の目的（_____）

14. ご家族の相談機関の利用状況について当てはまる（1）～（4）の いずれか1つ に○をして下さい。

- (1) 相談機関の利用について、全く関心がない
- (2) 相談機関の利用について関心はあるけれども、まだ利用したことはない
- (3) 現在は継続していないが相談機関を利用したことがある。
- (4) 相談機関を継続的に利用している

（相談機関を利用したことがある場合は、以下に具体的にお答え下さい）

- ・具体的な利用先（_____）
- ・利用の目的（_____）

WHO QOL 26（田崎・中根，2007）を金子書房の承諾を得て使用

- ひきこもり状態で悩まれているご本人とご家族の「生活の質（QOL）」を向上するために望む支援について、以下に自由にお書きください。

- 全国ひきこもり KHJ 親の会に望む活動について、以下に自由にお書きください。

アンケートは以上で終了です。記入漏れがないか、もう一度ご確認ください。
ご協力いただき、誠にありがとうございました。

なお、次のページからは調査実施担当者が現在行っている調査があります。
ご協力いただける方のみ、次のページにお進みいただけますと幸いです。

以下の調査は、平成 21 年度科学研究費補助金若手研究（B）「ひきこもり状態に対する臨床心理的地域援助システムのあり方に関する研究」の助成を受けて実施されるものです。

NPO 法人全国引きこもりKHJ 親の会が実施する全国調査とは別のものですが、報告書には結果を記載致します。ひきこもり状態のより詳細な実態把握のために行われる調査ですので、調査の趣旨をご理解頂き、ご協力頂ける方のみご記入下さい。

以下の調査では、特に 家族関係 についてたずねる調査が中心となっております。

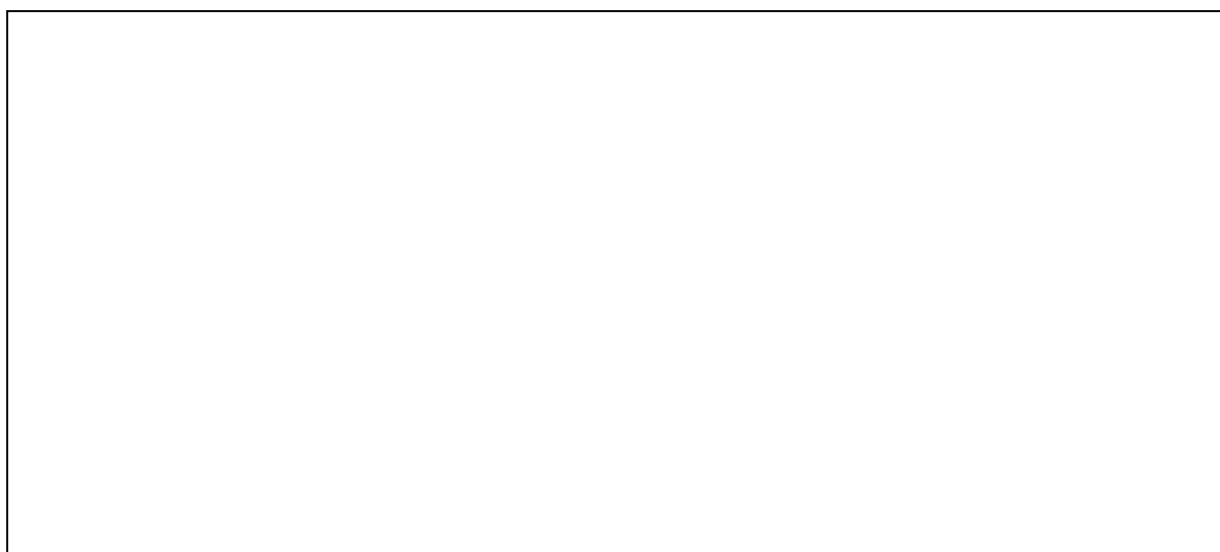
現在作成中の尺度を使用

B 以下の項目は、あなたがお子さん（ひきこもっている人）との接する場面で、実際によく行う行動についてお聞きします。以下の項目には、対人場面でよく行われる行動が書いてあります。以下の文章を読み、あなたがお子さん（ひきこもっている人）との接する場面でどの程度行うかについて、最もあてはまるもの1つに○をつけてください。質問によっては、ある場面ではするけれどある場面ではしない、という行動もあるかと思いますが、あまり考え込まずにお答えください。

	全くあてはまらない	ほとんどあてはまらない	あまりあてはまらない	たまにあてはまる	しばしばあてはまる	非常に当てはまる
1. 困ったことが起きたときに、今後どうしたらよいかを子どもに提案する	1	2	3	4	5	6
2. 気持ちや考えを伝えるときに、理由も一緒に伝える	1	2	3	4	5	6
3. おもしろいことを言うなど、場を和ませる	1	2	3	4	5	6
4. 話しかけられたとき、子どもに不快感を与えない距離をとる	1	2	3	4	5	6
5. 楽しい話をするときは、その場に合った明るい表情で話す	1	2	3	4	5	6
6. 気持ちが焦っているときでも、落ち着いた声で話す	1	2	3	4	5	6
7. 自分が困ったときに、それが子どもにとって面倒なことであっても相手に頼んでみる	1	2	3	4	5	6
8. 自分の話ではなく、子どもと共通した話題を選ぶ	1	2	3	4	5	6
9. 楽しい話をするときは、その場に合った明るい声の調子で話す	1	2	3	4	5	6
10. 嫌なこと、できないことは、はっきりと断る	1	2	3	4	5	6
11. 不愉快な気持ちを伝えるとき、自分がどんな気持ちになったか子どもに伝える	1	2	3	4	5	6
12. 話しかけるときには子どもをよく見る	1	2	3	4	5	6
13. 話しかけるとき、子どもに不快感を与えない距離をとる	1	2	3	4	5	6
14. 困ったことを解決するとき、思いついた解決案の長所と短所を考える	1	2	3	4	5	6
15. 困ったことを解決するとき、いくつか解決案を考える	1	2	3	4	5	6
16. 気持ちが焦っているときでも、落ち着いた態度で話す	1	2	3	4	5	6
17. その場にあった声の大きさで話す	1	2	3	4	5	6
18. うれしい気持ちを伝えるとき、自分がどんな気持ちになったか子どもに伝える	1	2	3	4	5	6
19. 話しかけるときには子どもの方に体を向ける	1	2	3	4	5	6
20. 不愉快な気持ちを伝えるとき、不愉快になった理由を具体的に話す	1	2	3	4	5	6
21. 困ったことを解決するとき、問題が何かはっきりさせる	1	2	3	4	5	6
22. 楽しい話を聞くときは、その場に合った明るい表情で聞く	1	2	3	4	5	6
23. 子どもの話題やその場の話題にあわせて話す	1	2	3	4	5	6
24. 知りたいこと、わからないことがある時に、ためらわずに質問する	1	2	3	4	5	6
25. 子どもの話が違うと思っても、すべてを否定するようなことを言わない	1	2	3	4	5	6
26. 話しかけられたときには、子どもを見る	1	2	3	4	5	6
27. 子どもが話したり、質問できるように、間をとりながら話す	1	2	3	4	5	6
28. 話しかけられたとき、子どもの方に体を向ける	1	2	3	4	5	6

Relationship Happiness Scale (Smith & Meyers, 2004) を
制作者の承諾を得て使用

●本調査についてお気づきの点がありましたら、自由にお書きください。



質問は以上です。記入漏れがないか、もう一度ご確認ください。
ご協力いただき誠にありがとうございました。

付録2 調査用紙（本人用）

調査に含まれたものうち、制作者に許可を得た上で使用した尺度、及び現在制作中の尺度は記載しておりません。

アンケートの説明

本調査は、「ひきこもりとQOL（Quality of Life：生活の質）を明らかにする」ことを目的としています。本調査の結果は、今後のひきこもり問題への対応を発展させる資料として活用させていただきます。本調査の趣旨をご理解いただき是非ともご協力をお願い致します。

調査結果の解析において、個人名、個人の回答内容などは一切公表せず、個人情報保護には最大限配慮致します。

本調査の結果は調査実施担当者のホームページにて公開し、その成果を広く普及させるよう努力して参ります。

本調査の趣旨をご理解の上、何卒ご協力の程をよろしくお願い申し上げます。

全国引きこもりKHJ親の会（家族会連合会）

この用紙は、切り離して頂いてもかまいません。

次のページ以降の用紙のみ回収いたします。

本調査について何かございましたら、下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

調査実施担当者連絡先

〒770-8502 徳島市南常三島町1-1

徳島大学大学院リサーチ・センターサイエンス研究部 境 泉洋研究室

Tel&Fax 088-656-7191(直通) E-mail :motohiro@ias.tokushima-u.ac.jp

ホームページ : <http://www.ias.tokushima-u.ac.jp/motohiro/>

アンケート表紙

調査にご回答頂く上でのご注意いただきたい点

- ① 本調査への協力は強制ではありません。ご自身の判断でご協力ください。
- ② この質問紙には、正しい答えや間違った答えというのではありませんので、他の方とは相談せずに、お一人でご回答ください。

この用紙以降を回収いたします。

WHO QOL 26（田崎・中根，2007）を金子書房の承諾を得て使用

B. 以下の質問について、あてはまるものを○で囲んでください。

1. あなたは、現在、社会参加（学校・職場に行く）などをしておらず、自宅以外での活動が失われた状態（以下「ひきこもり状態」と表記する）ですか？
→ a. はい b. いいえ
2. あなたは過去に「ひきこもり状態」を経験されたことがありますか？
→ a. はい b. いいえ

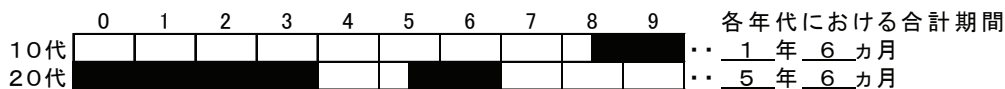
1. 2. の質問に両方とも「b. いいえ」と答えた方は、ここでアンケートは終了です。
ご協力いただき、誠にありがとうございました。

C. 以下の質問について該当するところに○をつけるか、具体的に記入してください。

1. あなたが住んでいる都道府県をお答えください。 → _____ 都・道・府・県
2. あなたの年齢をお答えください。 → (_____ 歳)
3. あなたの性別をお答えください。 → a. 男性 b. 女性
4. あなたがひきこもり状態を経験した期間をお答えください。

●下記の例を参考にして、あなたがひきこもり状態を経験した期間を黒く塗りつぶし、右の欄に各年代でひきこもり状態を経験した期間の合計をご記入ください。

例：18 歳半～24 歳になるまでの間と、25 歳半から 27 歳になるまでの間ひきこもった場合



	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	各年代における合計期間
10代											… ____ 年 ____ ケ月
20代											… ____ 年 ____ ケ月
30代											… ____ 年 ____ ケ月
40代											… ____ 年 ____ ケ月
50代											… ____ 年 ____ ケ月

5. あなたの、現在のひきこもり状態の程度についてお答えください。

- a. 友人とのつきあい・地域活動には参加している
- b. 他者との関わりはないが、外出はしている
- c. 外出はできないが、家庭内では自由に行動している
- d. 外出もできず、家庭内でも避けている場所がある
- e. 自室に閉じこもっている

6. あなたの相談機関の利用状況についてあてはまる(1)～(4)のいずれか1つに○をして下さい。

- (1) 相談機関の利用について、全く関心がない
- (2) 相談機関の利用について関心はあるけれども、まだ利用したことはない
- (3) 現在は継続していないが相談機関を利用したことがある。
- (4) 相談機関を継続的に利用している

(相談機関を利用したことがある場合は、以下に具体的にお答え下さい)

- ・具体的な利用先(_____)
- ・利用の目的(_____)

7. あなたは過去に不登校を経験したことがありますか？

不登校とは、「何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因・背景により、登校しない、あるいはしたくともできない状況で、病気や経済的な理由によるものを除いて、年間30日以上欠席した」ことをいいます。

⇒はい・いいえ

8. あなたはこれまでに働いて賃金を得た経験がありますか？

⇒はい・いいえ

9. あなたの家でのパソコン、携帯電話、ゲーム機の使用についてお聞きします。

①あなたは家でパソコン・携帯電話・ゲーム機を使用しますか？

パソコン⇒ はい・いいえ 携帯電話⇒ はい・いいえ ゲーム機⇒ はい・いいえ

家でパソコン、携帯電話、ゲーム機のいずれも使用していない方は「10」にお進みください。

②平均すると1週間の何日くらい、また、一日平均何時間くらい使用していますか？

パソコン ⇒ 1週間のうち平均約 _____ 日、一日で平均約 _____ 時間

携帯電話 ⇒ 1週間のうち平均約 _____ 日、一日で平均約 _____ 時間

ゲーム機 ⇒ 1週間のうち平均約 _____ 日、一日で平均約 _____ 時間

③どのような目的でパソコン、携帯電話、ゲーム機を使用していますか？当てはまるものにいくつでも○をつけてください。

- | | | |
|----------|--------|----------------------|
| a.電子メール | b.チャット | c.掲示板やプロフィールに書き込みをする |
| e.サイトを見る | d. ゲーム | e.その他 (_____) |

10. あなたの「生活の質 (QOL)」を向上するために望む支援について、以下に自由にお書きください。

11. 全国ひきこもり KHJ 親の会に望む活動について、以下に自由にお書きください。

アンケートは以上で終了です。記入漏れがないか、もう一度ご確認ください。

ご協力いただき、誠にありがとうございました。

なお、次のページからは調査実施担当者が現在研究として行っている調査があります。

ご協力いただける方のみ、次のページにお進みいただけますと幸いです。

以下の調査は、平成 21 年度科学研究費補助金若手研究 (B)「ひきこもり状態に対する臨床心理的地域援助システムのあり方に関する研究」の助成を受けて実施されるものです。

NPO 法人全国引きこもりKHJ親の会が実施する全国調査とは別のものですが、報告書には結果を記載致します。ひきこもり状態のより詳細な実態把握のために行われる調査ですので、調査の趣旨をご理解頂き、ご協力頂ける方のみご記入下さい。

以下の調査では、特に 相談機関の利用 についてたずねる調査が中心となっております。

A. 相談機関に来談する際に、以下の情報をどの程度重要だと感じましたか？または、相談機関に来談するとしたら以下の情報がどの程度重要だと思いますか？「1：全然重要でない」～「4：とても重要である」の4つの選択肢の中からあてはまるもの一つに○をつけてください。

	全然重要でない	あまり重要でない	やや重要である	とても重要である
1 相談機関の全体的な案内・紹介	1	2	3	4
2 相談機関が利用可能な日時	1	2	3	4
3 相談機関の利用や申し込み方法の具体的な説明	1	2	3	4
4 相談に関する費用についての情報	1	2	3	4
5 守秘義務に関する情報	1	2	3	4
6 相談機関の場所や周辺地図などの情報	1	2	3	4
7 相談機関の電話番号	1	2	3	4
8 相談機関のメールアドレス	1	2	3	4
9 相談内容、相談例の具体的な記載	1	2	3	4
10 相談機関において利用できるサービスの一覧	1	2	3	4
11 相談機関が主催する催しやイベントの情報	1	2	3	4
12 相談機関の雰囲気についての情報	1	2	3	4
13 相談担当者の氏名	1	2	3	4
14 相談担当者の専門性についての情報	1	2	3	4
15 相談担当者の顔写真	1	2	3	4
16 相談機関の外観が分かる画像	1	2	3	4
17 相談機関内部の画像	1	2	3	4
18 心理的な問題についての基礎知識	1	2	3	4
19 相談機関によるコラムなど	1	2	3	4
20 相談機関の利用者数の統計	1	2	3	4

日本語版 Acceptance and Action Questionnaire-II (木下ら, 2008) を
著者の承諾を得て使用。

C.あなたが相談機関に来談する際、ご家族のどのようなサポートが有効でしたか？または、相談機関に来談するとしたら、どのようなサポートが有効だと思いますか？有効だと思う選択肢の番号にいくつでも○をつけてください。また、以下の項目以外に有効であったサポートがあれば、「その他」の欄に自由にお書きください。

①	家族が、様子を見守ってくれる
②	家族が、来談についてアドバイスをくれる
③	家族が、車を出すなど交通手段を準備してくれる
④	家族が、お金を貸してくれる
⑤	家族が、来談に役立つ情報をくれる
⑥	家族が、来談に関するあなたの努力を高く評価してくれる
⑦	家族が、来談に関する不安や悩みを聞いてくれる
⑧	家族が、来談に関して自分を励ます言葉をかけてくれる
⑨	家族が相談機関に付き添ってくれる
その他	

質問は以上です。記入漏れがないか、もう一度ご確認ください。
ご協力いただき誠にありがとうございました。

問い合わせ先

境 泉洋 (さかい もとひろ)

〒770-8502 徳島県徳島市南常三島町1-1

徳島大学大学院ソシオ・アーツ・アント`サイエンス研究部

臨床コミュニティ心理学研究室

Tel&FAX 088-656-7191

E-mail: motohiro@ias.tokushima-u.ac.jp

HomePage:<http://web.ias.tokushima-u.ac.jp/motohiro/>

NPO法人全国引きこもりKHJ親の会

〒339-0057 さいたま市岩槻区本町1-3-3

FAX 048-758-5705

E-mail: webmaster@khj-h.com

HomePage:<http://www.khj-h.com/>